

滋賀県立琵琶湖博物館

年 報

平成 8 年度

第 1 号



LAKE BIWA MUSEUM

滋賀県立  
琵琶湖博物館

滋賀県立琵琶湖博物館

年 報

平成 8 年度

第 1 号



滋賀県立  
琵琶湖博物館

LAKE BIWA MUSEUM

---

## 年報の発刊にあたって

---

滋賀県立琵琶湖博物館は、日本一大きい湖である琵琶湖のほとりに、12年ばかりの準備期間を経て、1996年（平成8年）4月1日に設置され、同年10月20日に一般公開されました。

私たちのこの琵琶湖は、およそ400万年前にその起源をもつ、世界でも有数の古代湖です。そして、この長い歴史の中で、ニゴロブナやビワコオオナマズなど、世界中でこの湖にしか存在しない種、すなわち固有種と呼ばれる多くの生物が進化してきたのです。

また、この琵琶湖のまわりに人間が住みついたのは少なくとも1～2万年前と考えられており、そのとき以来人間は、この湖とそのまわりの自然と共存し、その恵みを大きく受けながら私たちの文化を発展させてきました。

しかし、21世紀を目前にした今、近代文明の発達は、人間の生活がある面で便利・快適にするいっぽう、琵琶湖、そして自然そのものを危機にさらしています。いや、長い時間をかけて共進化してきた湖と自然との「生命文化複合体」全体が、特にここ数十年、大きく価値を低めてきているのです。

琵琶湖博物館は、このような琵琶湖と人間の現状をまえにして、「湖と人間」の共存関係を、今日から、いかに継承し発展させるかを各自が考えて行くことを主題とした新しい型の博物館として生まれました。ここでは、地域に根を下ろした身近な「もの」や「こと」を材料に、学芸員が、ときには皆さんといっしょに調査研究した成果をもとにして、あらゆる年齢の人々の知的な好奇心をかきたて、全身で体験できるようなさまざまな展示が用意されています。

しかし、このような展示もじつは「本当の博物館」の入り口にしか過ぎません。「本当の博物館」とは、琵琶湖博物館の前に大きく広がる実在の琵琶湖であり、そのまわりの近江の豊かな自然であり、そしてそこで生まれかつ育まれてきた暮らしや文化そのものなのです。

したがって、この琵琶湖博物館のいちばんの願いは、来館者の方々がこのような「本当の博物館」の持つ奥深さ、その意味や価値を展示をはじめそのほかさまざまな博物館活動を通じて再認識され、さらには、みずから実際に野外に出かけて、「湖と人間」との織りなす「生命文化複合体」に思いをはせ、そして、今後自分たちの暮らしをどのようにしていっそう共進的に発展させて行くのかを、各自で考えて下さることにあるわけです。

琵琶湖博物館は公開以来、幸いに好評であり、年度末までの5か月あまりのあいだに49万人の方々が来館して下さいました。また、見学会・観察会など、それ以外の多くの博物館活動にも多数の方々が参加して下さいました。

このたび初年度の活動状況を、このようなかたちで「年報」として取りまとめました。知識や情報を交換し、語り合う場の一つにしたいと考えてのことです。琵琶湖博物館は、皆さまとともにたえず発展し続けて行かなければなりません。研究調査・資料整備のいっそうの充実をはかりながら、努力を続けていくつもりですので、皆さまのさらなるお力添えを心からお願いします。

また、琵琶湖博物館の建設や資料収集をはじめ、さまざまなかたちでこれまで御協力を頂いた方々に、厚く御礼を申し上げます。

1997年（平成9年）10月

滋賀県立琵琶湖博物館

館長 川那部 浩哉

# 目 次

年報の発刊にあたって

I	開館記念行事	1
1	開館記念式典等	1
(1)	開館記念式典	1
(2)	開館記念内覧会	2
(3)	一般公開	2
(4)	シンボルマークの公募・決定	2
II	博物館活動の概要	3
1	展示および開館記念シンポジウム	3
(1)	常設展示	3
ア	展示室の概要	3
(ア)	展示室A「琵琶湖のおいたち」	3
(イ)	展示室B「人と琵琶湖の歴史」	3
(ウ)	展示室C「湖の環境と人々の暮らし」	3
(エ)	展示室C「淡水の生き物たち」(水族展示)	4
(オ)	「ディスカバリールーム」	4
(2)	企画展示	5
ア	開館記念特別展	5
	今森光彦写真展「里山ー生命の小宇宙ー」	
イ	企画展示「博物館ができるまで」	6
(3)	開館記念シンポジウムの開催	7
ア	開館記念シンポジウム(その1)	7
(ア)	水がはぐくむ生命(いのち)(1)「琵琶湖と魚と人間ー東アジア的世界のなかでー」	7
(イ)	水がはぐくむ生命(いのち)(2)「里山とその生き物たちー人とのかかわりをつめるー」	8
(ウ)	関連イベント	8
a	里山訪問	8
b	里山フォーラム	9
イ	開館記念シンポジウム(その2)	10
(ア)	「今、なぜ博物館なのか：その理念、実践と限界」	10
ウ	開館記念シンポジウム(その3)	11

(ア) 世界古代湖会議（I C A L '97）の開催準備	11
(4) 水族企画特別展示	12
ア 「里山の水生生物」	12
イ 「ブラジルの淡水魚－南米の大河と湖沼群の魚たち－」	12
(5) 屋外展示	12
(6) ミュージアム・インストラクター（博物館運営スタッフ）	12
(7) 水族の飼育管理・保護増殖	12
(8) 展示関連印刷物等	14
2 研究・調査活動	15
(1) 総合研究	15
(2) 共同研究	15
(3) 専門研究	15
ア 湖沼研究系	15
イ 集水域研究系	16
ウ 応用地域研究系	16
エ 博物館学研究系	16
オ 公表された主な研究成果	16
(4) 研究補助を受けた研究	18
(5) 研究業績に対する受賞	18
(6) 研究報告書	18
(7) 館員の講演活動	19
3 交流・サービス活動	24
(1) 観察会・見学会等	24
ア 観察会・見学会	24
イ 博物館探険	25
(2) 質問コーナー・フロアトーク	25
(3) 教育研修会関係	26
(4) 体験学習プログラムの作成	27
(5) 博物館入門セミナー	27
(6) 交流センター関連印刷物の発行	29
(7) その他	29
4 情報活動	30
(1) 情報センターの整備およびサービス	30

(2) 通信網を利用したサービス	30
(3) 博物館職員による利用	30
(4) 図書、映像資料	31
ア 図書	31
イ 映像資料	31
(5) 情報システムの構築	32
5 資料整備活動	34
(1) 方針	34
(2) 収蔵資料点数	34
ア 地学標本	34
イ 植物標本	34
ウ 動物標本	34
エ 液浸標本	34
オ 考古資料	34
カ 歴史資料	34
キ 民俗資料	34
ク 環境資料	35
ケ 水族資料	35
(3) 新規資料収集	35
ア 収集、提供	35
イ 受贈	35
ウ 交換	35
エ 購入	35
オ 製作	35
カ 参加型調査	35
(4) 資料整理	35
ア 地学標本	36
イ 植物標本	36
ウ 動物標本	36
エ 液浸標本	36
オ 考古資料	36
カ 民俗資料	36
キ 環境資料	36
(5) 燻蒸	36
(6) 保存環境調査	37

(7) 取蔵資料の貸出	37
(8) 資料調査協力員	37
(9) 資料評価委員	38
Ⅲ 利用状況	39
1 平成8年度入館者数	39
(1) 総入館者数調	39
(2) 学校等入館者数	40
(3) 曜日別入館者数	40
(4) 企画展入場者調	40
2 来館者アンケート結果報告	41
3 新聞掲載(取材)記録	42
4 雑誌関係記事掲載(取材)記録	50
5 テレビ放映・ラジオ放送(取材)記録	54
Ⅳ 組織および運営	55
1 組織	55
2 職員	56
3 予算	59
4 琵琶湖博物館協議会	60
5 関係条例・規則等	61
(1) 滋賀県立琵琶湖博物館の設置および管理に関する条例	61
(2) 滋賀県使用料および手数料条例	62
(3) 滋賀県立琵琶湖博物館管理運営規則	63
(4) 琵琶湖博物館観覧料および使用料減免要綱	66
(5) 家庭の日および体験学習の日における観覧料の取扱い	67
Ⅴ 平成8年度 博物館ダイアリー	68
Ⅵ 新しい淡海文化の創造に向けて(平成8年10月1日職員向け知事談話より)	77
Ⅶ 博物館利用のご案内	78



# I 開館記念行事

## 1 開館記念式典等

(1) 開館記念式典 10月18日(金) 博物館ホール (招待250名)

琵琶湖博物館の構想から建設、完成にいたるまで助力いただいた方々をはじめ、博物館、研究、行政等多方面の関係者を招待し、開館記念式典を行なった。

ついでには、秋篠宮同妃両殿下の御臨席のもとにテープカットや式典を挙行し、「博物館ができるまで」のビデオ観賞のあと館内観覧を行った。

また、翌日開催する開館記念シンポジウムの関係者によるシンポジウムレセプションをホテルレークビワで秋篠宮同妃両殿下の御臨席のもとに開催した。



開館記念式典秋篠宮殿下のお言葉

### ア 開館記念式典日程

14:00	テープカット	秋篠宮同妃両殿下
14:20	開館記念式典	
	式辞 滋賀県知事	稲葉 稔
	秋篠宮殿下のお言葉	
	祝辞 文部省生涯学習局長	草原 克豪
	自治省財政局長	二橋 正弘
	(財)日本博物館協会会長	佐野 文一郎
	滋賀県議会議長	石田 幸雄
	草津市長	古川 研二
	来賓紹介	
	建設経緯紹介 滋賀県教育長	吉川 勉
	謝辞 滋賀県立琵琶湖博物館館長	川那部 浩哉
	閉会	
15:20	映像「博物館ができるまで」観賞	
15:45	館内観覧	

(2) 開館記念内覧会 10月19日(土)

前日に引き続き、招待者(2,000人)の内覧会を行った。

(3) 一般公開 10月20日(日) 入館者 11,513人

(4) シンボルマークの公募・決定

琵琶湖博物館にふさわしく、人々に親しまれるシンボルマークを広く一般から募集した。平成8年2月1日から3月8日まで公募を行なったところ1,605点の応募があり、選考の結果、次の作品が審査会で決定された。

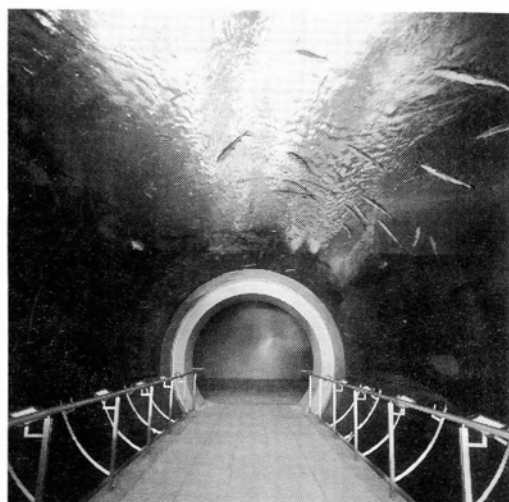
最優秀賞 制作者 麻原 克司 氏

制作意図 「湖水にたわむれる魚の姿をモチーフにした。また、ミュージアムのMを表す。」

シンボルマーク



開館を待つ観覧者の列



水中にいるような感じのトンネル水槽

## Ⅱ 博物館活動の概要

### 1 展示および開館記念シンポジウム

#### (1) 常設展示

常設展示は、6月30日に展示の施工を完了した。その後、10月18日まで展示物の調整や試運転を行った。開館後の保守点検は、学芸員などによる日常的なもののほか、休館日等を利用した専門業者によって対処した。

#### ア 展示室の概要

##### (ア) 展示室A 「琵琶湖のおいたち」

2億5千万年前から現在までの滋賀の大地の歴史と、移動してきた琵琶湖の各時代ごとの様子、すんでいた生物、現在との関係等を展示。

高さ4メートルのコウガゾウの骨格や、当時のメタセコイヤの森をジオラマで再現し、その中を歩くことができる。また、展示を作る過程を表現するために、研究室を再現して機器や化石等にふれる展示を行った。

特に、鉱物や化石の標本をじっくりと見たい人のためには、コレクションギャラリーとして、周囲に標本を配置してテーブルを置き、カウンターでは、化石や鉱物標本の入った箱の貸出しサービスを行った。

##### (イ) 展示室B 「人と琵琶湖の歴史」

人びとのくらしと琵琶湖とのむすびつきの深まりを見ていくために、今日まで続いている琵琶湖と人間とのかかわりの歴史を、湖底遺跡、湖上交通、漁労の様子および治水・利水への取り組みなどを通して展示した。

##### (ウ) 展示室C 「湖の環境と人びとのくらし」

昭和30年代は、人のくらしの視点から見ると、日本の歴史の中で最も急激な変化があった時代である。稲作農耕が始まって以後、長く続いてきた「自然と結びついた」けれども厳しい労働が伴った時代と、便利になった現在の暮らしとを比較した。

人の暮らしと、暮らしをとりまく自然に改めて目を向けて、自分にとってはどういう暮らしが望ましいのか、環境の多様さを理解しながら、自分が選ぶ環境を考えてみようという展示を行った。

まず、導入部では、琵琶湖を中心とした近畿圏の1万分の1の航空写真をタイルに焼いて床全面に敷き詰めた展示で、滋賀県の土地利用や河川網を知り、琵琶湖周辺の環境を考える前提としようとしている。展示室内には、彦根市の民家を移築して、昭和39年の水利用をみたり、その

暮らしを支えていた里山や田畑、ため池のジオラマを見たり、湖に生きる人達の自然の見方、琵琶湖の水の動きを展示した。「環境とは何だろう」という展示では、学芸員が自分が考える環境観を展示し、それとともに環境を考える材料を見ながら、自分はどういう環境をいい環境と考えるのかを一緒に考えてみようという展示を行った。

(エ) 展示室C 「淡水の生き物たち」(水族展示)

水族を琵琶湖の環境を考えるための一部と位置付け、C展示の一部とした世界で最大級の淡水魚の水族展示で、琵琶湖の魚を、環境ごとに生態展示し、また、個々の魚の姿をじっくりと見る小さな水槽や、世界のおもな湖の淡水魚の展示を行った。

(オ) 「ディスカバリールーム」

小学校低学年程度を主な対象とした、親子で楽しむことができる展示室。20のコーナーを設置し、どれも体験を通して、遊びながら博物館を感じることができるという部屋。



空から見た琵琶湖盆地「私の家はどこかな？」

## (2) 企画展示

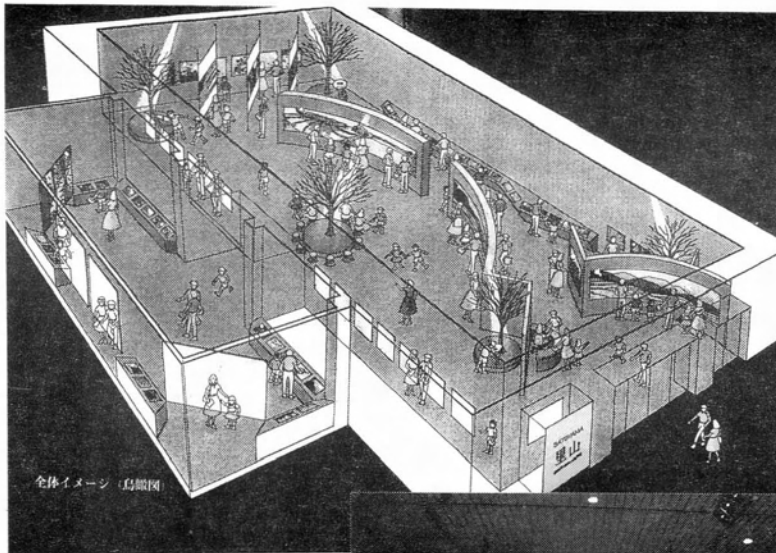
### ア 開館記念特別展 今森光彦写真展 「里山 ー生命の小宇宙ー」

期 間： 平成8年10月20日(日)～平成9年1月19日(日) 72日間

観覧者数： 39,015名

展示概要： 里山の自然とそこに住む生き物を写し続けている写真家、今森光彦氏の写真を通して里山のもつ多面的な価値を伝えるものである。たんぼ、雑木林、川といった身近な自然が組み合わせられた里山、そして植物、昆虫をはじめとして多種多様な生き物が生息する空間としての里山、日々の生業の場として人と関わってきた里山。今森氏の写真は、この里山のもつ、美しさ、多様性、豊かさが的確に表現されており、展示室そのものが里山となって、それが五感で感じられるような展示の工夫も行なった。

展示資料： 今森光彦撮影写真87点



企画展示 今森光彦写真展 「里山ー生命の小宇宙ー」

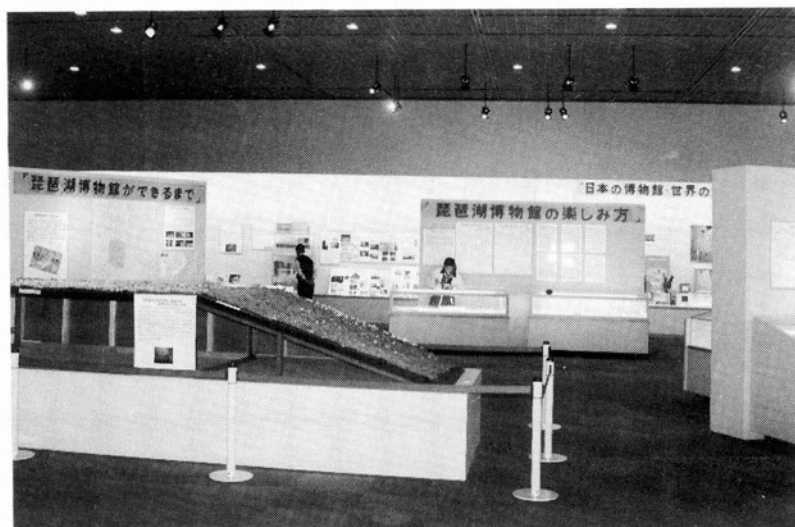
イ 企画展示 「博物館ができるまで」

期 間： 平成9年3月8日(土)～平成9年3月30日(日) 19日間 (4月27日まで開催)

観覧者数： 9,717名

展示概要： 昭和62年に建設が決定してから10年、一方的な伝達博物館ではなく、参加型ミュージアム博物館としてオープンした琵琶湖博物館の開館までの歩みを映像や展示で紹介したもので、レプリカをはじめとする様々な展示物の制作過程や学芸員が行ってきた調査や研究の様子を展示すると同時に、「博物館とはどういったところか」から始まり、日本や海外の博物館の紹介や、琵琶湖博物館の楽しみ方などを展示紹介した。

展示資料：	レプリカができるまでの制作過程のレプリカ	1点
	トンネル水槽切断面	1点
	国内博物館出版物	1,114館



企画展 「博物館ができるまで」

### (3) 開館記念シンポジウムの開催

「湖と人間」をテーマに、その視野と活動を琵琶湖と周辺環境のみならず、日本列島から東アジア、そしてさらに世界の湖沼まで展開していくことを目指し、海外からの講師を招き、3つの開館記念シンポジウムをシリーズで開催した。

#### ア 開館記念シンポジウム（その1）

##### (ア) 水がはぐくむ生命(いのち)（1）

###### 「琵琶湖と魚と人間

—東アジア的世界のなかで—

月 日：平成8年10月19日(土)

場 所：博物館ホール

参加者：250名

「概要」： 私たちにとって身近なコイやナマ

ズなどの淡水魚をめぐる湖（環境）と人間のかかわりについて、琵琶湖（日本）から韓国、中国、東南アジアにおよぶ地域的なひろがりのなかで討議。第2部では、秋篠宮殿下が「神様の使い プラー・ブッカー北部タイ・メーコーン河におけるオオナマズの民族魚類学—」と題して御講演された。



東アジアの淡水魚と人間—自然と文化の対話

パネルディスカッション

- 基調講演「琵琶湖の魚・世界の魚」 川那部浩哉（琵琶湖博物館館長）
- 問題提起「生命の自然史と文化史」 秋道 智彌（国立民族学博物館教授）

#### 第1部 淡水魚の生物的進化と分布の問題

「琵琶湖のコイ科魚類の由来」 中島 経夫（琵琶湖博物館専門学芸員）

「韓半島コイ目魚類の生物地理」 金 益秀（韓国全北大学教授）

「中国淡水魚類の生物地理学的問題と東南アジアのコイ・ナマズ」

劉 煥章（中国科学院水生生物研究所助教授）

「東南アジアから見た東アジアのコイ・ナマズ」

多紀 保彦（東京水産大学名誉教授）

#### 第2部 淡水魚をめぐる文化の諸相

「琵琶湖と中国雲南地方のナレズシ」 堀越 昌子（滋賀大学教授）

「韓国に於ける魚類文化の発達に就いて」 崔 基哲（韓国ソウル大学名誉教授）

「神様の使い プラー・ブッカー北部タイ・メーコーン河におけるオオナマズの民俗魚類学」

秋篠宮 文仁（社日本動物園水族館協会総裁）

「環境民俗学からみた川と湖」 鳥越 皓之（関西学院大学教授）

#### 第3部 東アジアの淡水魚と人間—自然と文化の対話

パネリスト 第1部、第2部講演者全員

(イ) 水がはぐくむ生命(いのち) (2) 「里山とその生き物たち 一人とのかかわりをみつめる」

月 日：平成8年10月26日(土)

場 所：博物館ホール

参加者：198名

「概要」： 里山は古くから私たちのなりわいをささえてきた身近な生活環境です。里山のひと自然のいとなみに焦点を当て、これからの人と自然の関係を考え、里山が持つ生態学的、文化的意義について、さまざまな視点から議論した。

基調講演 「里山から学ぶ」 講師 只木 良也 (名古屋大学教授)

第1部 スライド&トークショー 「里山をみつめる」

—虫との出会い・田んぼとの出会い—

講師 今森光彦 (写真家)

奥本大三郎 (埼玉大学教授)

ケビン・ショート (博物学・自然史ライター)

第2部 パネルディスカッション 「里山との新しい関係を求めて」

ビデオ 「田んぼの四季」上映

進行： 須磨 佳津江 (NHKキャスター)

パネリスト 只木 良也 (名古屋大学教授)

石井 実 (大阪府立大学教授)

今森 光彦 (写真家)

奥本 大三郎 (埼玉大学教授)

ケビン・ショート (博物学・自然史ライター)

千賀 裕太郎 (東京農工大学教授)

嘉田 由紀子 (琵琶湖博物館専門学芸員)

(ウ) 関連イベント

a 里山訪問

現在も里山を仕事場としている人や自然観察を通じて里山に関わっている人を訪問し、里山を歩き、感じ、体験して、肌で実感する。

- ・ 名 称： 第1回「棚田の水源をたどってみよう」

月 日： 平成8年11月10日(日)

場 所： 大津市仰木字平尾地先

参加者： 48名



- 名 称： 第2回「森林の作業を体験してみよう」  
 月 日： 平成8年11月23日(土)  
 場 所： 大津市石山寺地先  
 参加者： 25名

- 名 称： 第3回「里山を歩こう」  
 月 日： 平成8年12月1日(日)  
 場 所： 大津市仰木地先  
 参加者： 33名

b 里山フォーラム

シンポジウムや里山訪問の参加者を中心に里山についての情報を共有し、これからの取り組みを考える。

日 時： 平成9年1月18日(土) 9:45～15:30

会 場： ホールおよびセミナー室

参加者： 112名

内 容： 里山訪問報告

基調報告

「市民による里山の保全と活用」

木下 睦男 (大阪自然環境保全協会副会長)

「住民・企業・行政による地域環境改善運動」

渡辺 豊博 (日本グラウンドワーク事務局長)

里山交流会



「里山から学ぶ」講師 只木良也氏

里山フォーラムの会場

## イ 開館記念シンポジウム（その2）

### (ア) 「今、なぜ博物館なのか：その理念、実践と限界」

月 日：平成8年3月8日(土)

場 所：博物館ホール

参加者：94名

「概要」： 今、日本の博物館をとりまく環境は大きく変わり、「自発的に学ぶ場所」、「楽しみの場所」「来館者が参加する場所」等、新しい概念を含みつつ多様化しつつある。このような状況の中で博物館は、どのような社会的期待を担い、どのような役割を果たし得るのか。何が期待されているのか、博物館はどのようにしてその期待に応えられるのか、講演とディスカッションを通して、今後の博物館のあり方を探った。

#### 第1部 体験される博物館；その心理学と社会学

ジョン・フォーク（アメリカ；サイエンス・ラーニング社社長）

リン・ディアークング

#### 第2部 博物館の楽しみ方

高橋 啓一（琵琶湖博物館主任学芸員）

脇田 健一（琵琶湖博物館主任学芸員）

斉藤 品久（琵琶湖博物館インストラクター）

佐野 嘉和（博物館利用者）

佐野 友希

体験される博物館

講師 ジョン・フォーク氏



博物館の役割や期待  
ーパネルディスカッションー

佐野 未奈  
三宅 敏夫 (博物館利用者)  
三宅 喬之  
三宅 健太

### 第3部 パネルディスカッション

—博物館の役割や期待、その限界、今後の博物館像を探る—

進行；嘉田 由紀子 (琵琶湖博物館専門学芸員)

荻野 昌弘 (関西学院大学社会学部)

花井 正光 (文化庁文化財保護部)

染川 香澄 (子供のための博物館研究家)

布谷 知夫 (琵琶湖博物館事業部長)

クロージング・コメント

### ウ 開館記念シンポジウム (その3)

(ア) 世界古代湖会議 (ICAL '97) の開催準備 —古代湖における生物と文化の多様性—

開催予定年月：平成9年6月22日(日)～29日(日)

場所：琵琶湖博物館、滋賀県立大学

参加者：250名 (市民フォーラムは、500名予定)

「概要」：琵琶湖博物館の開館記念シンポジウムシリーズをしめくくるものである。

100万年以上の寿命をもつ古代湖は、淡水の魚や貝など、多様な生き物が進化をとげて今日にいたっている。琵琶湖も古代湖のひとつであり、古代湖には、生き物の進化の秘密をとく鍵がかくされている。また、湖の周辺には、古代から様々な人々が住み着き、独特な湖の文化をつくりあげてきた。しかし、世界的にみると多くの古代湖は移入種の侵入や環境破壊などの問題をかかえ、その将来が危ぶまれている。この会議では、古代湖の生物と文化のかかわりについて、様々な分野の研究者や行政関係者、住民が一堂に会して、これまでの知見や経験についての情報交換を行い、今後の新しい研究テーマや保全方法について議論を行う。その中から湖と人間のかかわり方の将来方向が示されることを期待する。

組織

「世界古代湖会議実行委員会」を設置し、企画委員会で事業計画を議論して、参加登録や発表申込みの案内を内外の研究者等に送付するなど、会議の開催準備を行った。

- 第1回企画委員会 平成8年11月10日
- 第2回企画委員会 平成9年 2月23日

#### (4) 水族企画特別展示

##### ア 「里山の水生生物」

川、ため池、用水路、田んぼ、など里山の水辺にすむ魚、水生昆虫、は虫類の生きた姿を展示紹介した。

・期間 : 平成8年10月20日(日) ~  
平成9年1月19日(日) (72日間開催)

##### イ 「ブラジルの淡水魚

—南米の大河と湖沼群の魚たち—

大河アマゾンとブラジル南部に点在する湖沼群の環境とそこに生息する淡水魚を展示するとともに、あわせて魚と人との関わりについても展示紹介した。

・期間 : 平成9年3月11日(火) ~  
平成9年3月30日(日) (17日間開催)  
4月20日(日)まで開催

#### (5) 屋外展示

2ヘクタール弱の屋外面積を、太古の森、縄文弥生の森、上流、中流、下流の川、池などを作り、展示と野外の自然とを結びつけるような空間としている。

また、生活実験工房や田畑などを作って、これからのワークショップの場として活用するため、備品の整備、田圃・畑の整備を行なった。

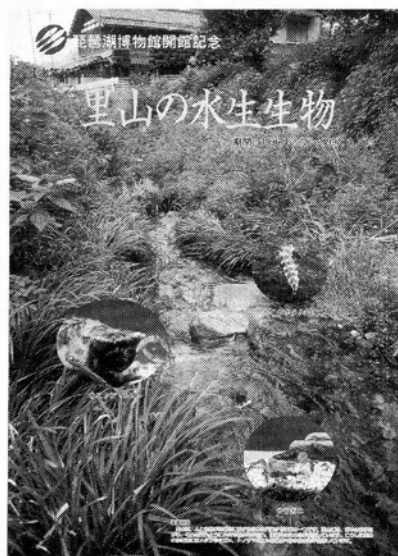
#### (6) ミュージアム・インストラクター (博物館運営スタッフ)

琵琶湖博物館の受付 (観覧料の徴収)、展示機器の操作、来館者の安全監視、簡単な展示の解説を目的に展示室および受付に配置した。

ついで、開館前には、3週間にわたり博物館の施設の詳しい説明をし、開館後は、各展示室の詳細な説明 (12月10日~2月13日) を行い、その後、モーニングレクチャーという形で開館時間前に各展示室コーナーの話を担当学芸員が20~30分間、毎日研修を続けて能力開発に努めている。

#### (7) 水族の飼育管理・保護増殖

水族展示を円滑に運営するため、水族の収集、飼育管理 (調餌、給餌等)、設備の運転・維持管理、水槽の清掃、繁殖等を行なった。なお、希少種の保護増殖に努めた結果、主な繁殖魚は次のとおりである。



平成 8 年度主な繁殖魚

コイ科

ヒナモロコ	<i>Aphyocypris chinensis</i>	2 3 2 尾
ウシモツゴ	<i>Pseudorasbora pumira</i> subsp.	2 0 0 尾
アブラヒガイ	<i>Sarcocheilichthys biwaensis</i>	1 8 5 尾
ミヤコタナゴ	<i>Tanakai tanago</i>	4 0 0 尾
イタセンパラ	<i>Acheilognathus longipinnis</i>	3 0 尾
ゼニタナゴ	<i>Acheilognathus typus</i>	2 3 0 尾
シロヒレタビラ	<i>Acheilognathus tabira</i> subsp.	4 8 6 尾
タナゴ	<i>Acheilognathus melanogaster</i>	7 尾
ニッポンバラタナゴ	<i>Rodeus ocellatus kurumeus</i>	2 9 7 尾
スイゲンゼニタナゴ	<i>Rhodeus sinensis suigensis</i>	2 3 尾

ドジョウ科

フクドジョウ	<i>Noemacheilus barbatus toni</i>	1 4 尾
--------	-----------------------------------	-------

ギギ科

ネコギギ	<i>Pseudobagrus ichikawai</i>	2 1 4 尾
------	-------------------------------	---------

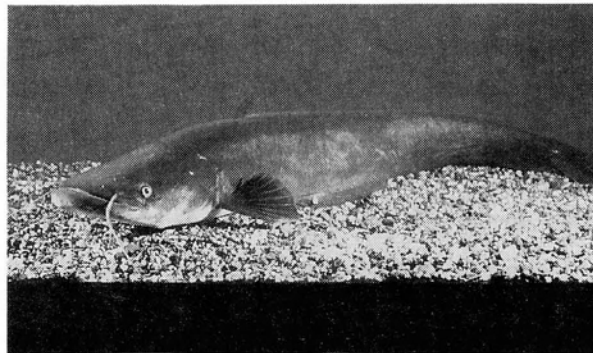
トゲウオ科

ハリヨ	<i>Gasterosteus aculeatus leiurus</i>	3 0 0 尾
-----	---------------------------------------	---------

外国産

コイ科

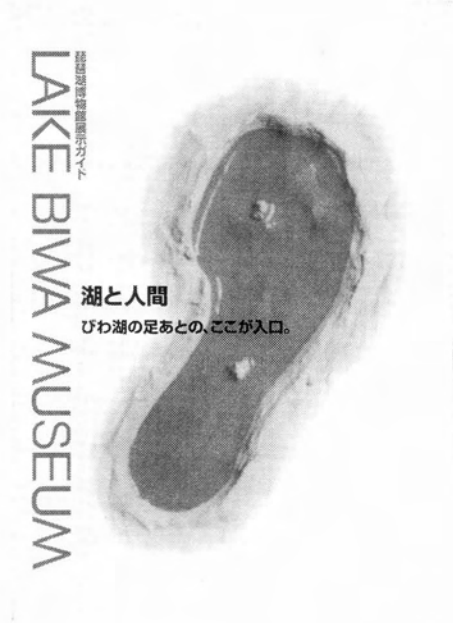
オオタナゴ (中国産)	<i>Acheilognathus macropterus</i>	5 6 2 尾
カラヒガイ (中国産)	<i>Sarcocheilichthy sinensis</i>	5 0 尾



ビワコオオナマズ

(8) 展示関連印刷物等

区 分	タ イ ト ル	定 価
開館記念誌	湖 人 (うみんど) -琵琶湖のくらしの物語-	2,500円
展示解説書	琵琶湖博物館展示ガイド	1,000円
企画展図録	里山	1,500円
企画展図録	博物館ができるまで	600円



## 2 研究・調査活動

琵琶湖博物館は、研究・調査、交流、情報、資料整備、展示という博物館活動全般にわたって、総合的な活動をする博物館を目指している。琵琶湖博物館の研究は、従来の学問体系にとらわれることなく、幅広いテーマに取り組み、その成果を、展示や交流活動に活かしながら、絶えず成長発展する博物館でありたいと考えている。

琵琶湖博物館には、3つの研究がある。多分野にまたがるテーマを総合的にコーディネートして、外部の研究者とも協力して行う総合研究。総合研究よりもテーマをしぼった研究で、博物館の複数の学芸員あるいは外部の研究者との共同研究。学芸員の専門的な資質を伸ばし、博物館の活動に活かすための専門研究である。平成8年度の研究活動は、次のとおり行なった。（なお、平成9年度からは、総合研究と共同研究は、主に館外者で構成される研究審査会の審査を経て採用される予定。）

### (1) 総合研究

- 水田生態系と人間活動に関する総合研究
- 琵琶湖の生物の生活史と生態に関する総合研究
- 琵琶湖と東アジアの湖、その成立と人間・生態系の比較研究
- 住民参加による生物と生活環境調査の方法論的研究

### (2) 共同研究

- 子ども博物館の展示と利用に関する研究
- 歴史資料の保存、利用方法の共通化に関する研究
- 水利用の変遷と村落の成立に関する研究
- 地域博物館の情報システムの開発と利用に関する研究
- 古琵琶湖層群の足跡化石に関する研究
- 学校における博物館利用の実践的研究
- 森林伐採が環境に及ぼす影響
- 屋外展示空間の生物群集と環境の変化のモニタリング
- 日本産希少淡水魚の遺伝的多様性
- 琵琶湖水系産水生昆虫等の系統分類
- 琵琶湖水系産トンボ類の分布と生態
- 植物化石の保存方法の確立

### (3) 専門研究

#### ア 湖沼研究系

- |         |                         |
|---------|-------------------------|
| 中 島 経 夫 | コイ科魚類の咽頭歯の研究            |
| 楠 岡 泰   | 琵琶湖における織虫類と藻類の共生関係について  |
| 山 崎 博 史 | 古琵琶湖層群の層序と堆積環境          |
| 松 田 征 也 | ミズシタダニ科貝塚の生態および琵琶湖内での分化 |

- 戸田 孝 琵琶湖水流動の微細構造の研究手法の検討  
 芦谷 美奈子 イバラモの雌雄比および雌雄分布とシュート成長に関する研究  
 中藤 容子 近江の民具から見た人々の暮らしの多様性  
 中井 克樹 琵琶湖における外来生物に関する研究  
 牧野 久実 琵琶湖歴史環境の世界史的評価研究  
 芳賀 祐樹 琵琶湖湖水中の溶存有機窒素の挙動に関する研究  
 亀田 佳代子 琵琶湖周辺に生息する鳥類の生態学的研究

イ 集水域研究系

- 嘉田 由紀子 湖沼と人間のかかわりをめぐる比較文化論的研究  
 草加 伸吾 植生と水質調節  
 高橋 啓一 多賀町産アケボノゾウの研究  
 内田 臣一 アミメカワラゲ科昆虫の分類と生物地理  
 脇田 健一 環境保全の社会的研究  
 木田 千代美 鮎川層群ならびに古琵琶湖層群から産出する植物化石に関する研究  
 八尋 克郎 オサムシ上科甲虫の系統分類学的研究および生態学的研究

ウ 応用地域研究系

- 森井 源蔵 住民と行政による地域づくりのプロセスに関する実践的研究  
 前畑 政善 日本産ナマズ類の産卵生態  
 藤岡 康弘 魚類の種の分化に関する研究  
 用田 政晴 近江の地域性に関する考古学的研究  
 小笠原 俊明 琵琶湖の水位変動が新田開発に与えた影響に関する研究  
 桑原 雅之 琵琶湖固有亜種のビワマスと流入河川に生息するアマゴとの関係  
 宮本 真二 堆積物試料の花粉分析による第四紀の古環境変動の復元

エ 博物館学研究系

- 布谷 知夫 太平洋と日本海側のブナ林の比較研究  
 秋山 廣光 ズナガニゴイの繁殖行動  
 橋本 道範 琵琶湖関係古文書に関する歴史的評価研究  
 高橋 政宏 大気環境の科学的認識と理解について

オ 公表された主な研究成果

研究成果は、琵琶湖博物館業績集第1号に詳しく収録する。ここでは、代表的成果のみを掲載した。

川那部 浩哉：1996：生物界における共生と多様性：人文書院：京都：206 P P.

中島経夫・内山純蔵・伊庭 功：1996：縄文時代遺跡（滋賀県粟津湖底遺跡第3貝塚）から出土したコイ科のクセノキプリス亜科魚類咽頭歯遺体：地球科学：50(5)419-421

山崎博史・吉川周作・此松昌彦・三矢信昭：1996：古琵琶湖層群高島累層白土谷部層の地質年代



- ：地質学雑誌：102:303-311
- 松田征也：1996：カゴメカワニナ：日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料(3)軟体動物．日本水産資源保護協会（編），東京：P P 17-21
- Toda T.:1996：Satellite Thermal Remote Sensing in the Bltex Area :Jpn.J.Limnol .,4(2):553-558
- 中井克樹：（1996）琵琶湖における外来種の現状と問題点—とくにカワヒバリガイと「バス問題」について—．関西自然保護機構会報，18(2)：87-94
- 牧野久実：1996：エリコ遺跡地域の開発に向けての提案：国際協力研究：12(1)：31-39
- Haga H.,Nagata T.,Sakamoto M.:1996:NH4+ Regeneration and uptake in mesotrophic lakes:diurnal and seasonal variations:Jpn .J.Limnol.57:213-223
- 嘉田由紀子：1996：村落社会と水環境問題への文化論的アプローチ：農業土木誌：1996(1):37-42
- 岡村喜明・高橋啓一：1996：長浜市加田町の金剛寺遺跡から出土した足印について：金剛寺遺跡発掘調査報告書：29-40
- 内田臣一：1996:日本産同舌類カワラゲの分布：第20回水生昆虫研究会、北海道積丹町
- 脇田健一：1996:京都大文字山ゴルフ場反対運動における住民運動・市民運動・自治会：佛教大学総合研究所紀要別冊：184-201
- 八尋克郎，矢野宏二，浜崎詔三郎，石谷正宇：1996:「河川環境指標生物としてのゴミムシ類昆虫（昆虫綱：鞘翅目）の生態学的研究」平成8年9月、河川美化・緑化調査研究論文集（第5集），河川環境管理財団・河川環境総合研究所，P P .121-137
- Kameda K.:1996:Optimal brood size and limiting factors of the Rufous Turtle Dove *Streptopelia orientalis*:Ecological Research:11:51-60
- Takai N.,Sakamoto W.,Maehata,M.,kitagawa T.,Mitsunaga Y.:1996:Settlement characteristics and habitats use of Lake Biwa catfish *Silurus biwaensis* measured by ultrasonic telemetry :Fisheries Sciences,63(2):181-187
- 藤岡康弘：1996年4月：幼魚期におけるピワマスとアマゴの成長と飽食量の変化：日本水産学会春期大会、東京水産大学
- Kobayashi Y. Okamoto K. Yoda M.:1996: "Expoloration of archaeological structures in deeper subsurface by means of directive antenna ":Journal of Aplied Geophysics, 35:175-183
- 小笠原俊明. 1996. 災害記録のデータベース化について. 土木技術研究発表会論文集
- Miyamoto S.Yasuda Y. Kitagawa H. :1996:Paleoenvironmnts in the Last Glacial Maximum around the Naka-Ikemimoor, Hukui Prefecture,Gentral Japan:Geographical Reports of Tokyo MetroPolitan University:31:131-147
- 布谷知夫：1996：近畿地方の保護上重要な植物の意味：京都保険医新聞：（1992）4-16
- 橋本道範：1996：中世後期における地域再編成の契機をめぐって：日本史研究407：32-44



## (7) 館員の講演活動

館長 川那部 浩 哉

年 月	タ イ ト ル 等	場 所
8. 4	・「科学にとって地球環境問題とは何か」 京大環境フォーラム	京都大学(京都市)
8. 5	・「生物多様性科学国際研究計画とその西太平洋・アジア地域ネットワーク」 韓国国立生物多様性研究センター発足記念会	全州(韓国)
	・ 生物多様性と生物環境国際シンポジウム (挨拶)	北京(中国)
	・「きものを語る」 京都きものフォーラム	京都市勤業館(京都市)
8. 6	・「琵琶湖博物館について」 滋賀県広報協会定期総会	商工労働会館(大津市)
8. 7	・「宇川のアユと私」 宇川記念講演会	丹後町平住民センター(京都府丹後町)
	・「淡水生物多様性研究計画」 生物多様性科学国際研究計画科学委員会	ロンドン(イギリス)
	・ マラウイ大学チャンセラー校セミナー (挨拶)	ゾンバ(マラウイ)
8. 8	・「淡水生物多様性研究計画」 陸水生物多様性国際フォーラム	バラトンフェレド(ハンガリー)
8. 9	・「世界イワナ熱狂者協会大会 (挨拶)	アメリカ
	・「生物多様性を考える：魚たちの生態から探る共生のしくみ」 福井県立大学特別講演会	福井県立大学
8. 10	・「琵琶湖と琵琶湖博物館」 草津市生涯学習大学教養コース	小浜キャンパス(福井県小浜市)
	・「琵琶湖の魚・世界の魚」 琵琶湖博物館開館記念シンポジウム	草津アマカホール(草津市)
	・ 琵琶湖博物館開館記念里山シンポジウム (挨拶)	琵琶湖博物館(草津市)
8. 11	・「生物界における一と二と多」 ゲーテ自然科学の集い	京都大学(京都市)
	・「生態学におけるビオトープ」 自然環境復元理念セミナー	フォーラム横浜(横浜市)
	・「琵琶湖博物館のめざすもの」 滋賀国際水フォーラム	琵琶湖博物館(草津市)
	・ 第3回応用生態工学シンポジウム (挨拶)	ダイヤモンドホテル(東京都)
	・「世界の湖の生物と文化：数百万年前に成立した琵琶湖と・バイカル湖・タンガニィカ湖など」 学士院賞受賞記念講演会	国立教育会館(東京都)
8. 12	・「琵琶湖博物館の案内と琵琶湖の水質、環境等について」 守山ロータリークラブ例会	ホテルレークビワ(守山市)
	・「生物多様性と共生」 WWF-J 25周年記念講演会 「生物の多様性とサンゴ礁」	東京農業大学(東京都)
	・「河川事業と生物」 水の懇話会	和敬塾(東京都)
9. 1	・「安定とは何か」 第7回京都国際セミナー	京都府ゼミナルハウス(京都府京北町)
	・「琵琶湖の岸に想う」 立命館大学理工学振興会	立命館大学琵琶湖キャンパス(草津市)
	・「世界の湖の生物と文化と博物館」 博物館指導者研究協議会	琵琶湖博物館(草津市)
9. 2	・「一動物学者から見た依田恭二さん」 依田恭二先生追悼の会	滋賀県立大学(彦根市)
	・「生態学について」 近畿シンクタンク協議会	琵琶湖博物館(東京都)
9. 3	・「琵琶湖と彦根」 彦根南ロータリークラブ例会	彦根商工会議所(彦根市)
	・「なぜ今博物館なのか」 琵琶湖博物館開館記念シンポジウム(挨拶)	琵琶湖博物館(草津市)
	・「生態学に関する〈大きな〉話」 京都府生物教育会例会	琵琶湖博物館(草津市)
	・「湖と人間」 近畿生きがいづくり講演会	琵琶湖博物館(草津市)

湖沼研究系

専門学芸員 中 島 経 夫

年 月	タ イ ト ル 等	場 所
8・9	・「琵琶湖とその生物の生い立ち」 伊吹町公民館文化財教室	伊吹町葦草の里文化センター(伊吹町)
8・10	・「琵琶湖のコイ科魚類の由来」 琵琶湖博物館開館記念シンポジウム 水がはぐくむ生命(いのち) 1. 琵琶湖と魚と人間東アジア的世界のなかで	琵琶湖博物館(草津市)
8・10	・「琵琶湖博物館のオープンまでの経過と展示概要」 湖西市商工会視察研修	琵琶湖博物館(草津市)
8・11	・「古琵琶湖層群とその動植物」 栗津遺跡(縄文時代)から出土したコイ科魚類と古琵琶湖層群化石研究会例会シンポジウム	琵琶湖博物館(草津市)
8・12	・「環境問題の現状と課題、琵琶湖博物館の果たす役割ー琵琶湖の環境と生物」 平成8年度教職経験者研修	琵琶湖博物館(草津市)
9・3	・「琵琶湖と三方湖ーコイ科魚類の咽頭歯と縄文人」 三方町立郷土資料館・三方町立図書館主催 講座「発見と考古学」	三方町立図書館(三方町)

学 芸 員 戸 田 孝

9・1	・「博物館におけるコンピューター活用とマルチメディア」 博物館指導者研究協議会庶務部門 日本博物館協会	琵琶湖博物館(草津市)
-----	---	-------------

学芸技師 中 井 克 樹

8・6	・「琵琶湖に侵入した魚類・貝類の現状～とくにカワヒバリガイと『バス問題』について」 関西自然保護機構研究会	京都大学理学部(京都市)
8・11	・「世界最古の湖、バイカル湖の生き物たち」 関西淡水動物談話会第8回例会	琵琶湖博物館(草津市)
8・12	・「日本のシジミ、琵琶湖のシジミ」 しじみ講演会	龍谷大学瀬田(大津市)
9・3	・「カワヒバリガイの概略と日本における生息状況」 電気化学会海生生物汚損対策懇談会「新規外来付着生物セミナー」	電力中央研究所我孫子研究所(我孫子市)
	・「カワヒバリガイなど淡水棲移入生物の影響と対策」 第44回日本生態学会大会自由式シンポジウム「移入対策への対策はいかにあるべきか」	北海道大学(札幌市)

学芸技師 牧 野 久 実

8・10	・「丸子船の復元」 博物館入門セミナー	琵琶湖博物館(草津市)
8・11	・「イスラエル湖岸地域の考古学」	聖泉短期大学
9・2	・「展示物としての丸子船」 近畿地区教育研究研修会	琵琶湖博物館(草津市)
9・3	・「キネレット湖の環境と文化」 犬上郡教育振興協議会文化財部会例会	

集水域研究系

専門学芸員 嘉田 由紀子

年 月	タ イ ト ル 等	場 所
8・4	<ul style="list-style-type: none"> <li>「湖とともに生きる－琵琶湖の交通・生活システムと文化」 農山漁村文化協会講演会</li> <li>「生活文化の多様性と生態系－余呉湖の事例より」 余呉湖シンポジウム</li> </ul>	草津市 余呉町
8・6	<ul style="list-style-type: none"> <li>「余呉湖はだれのものか？－湖をめぐる生活実践と上下流葛藤の生活環境史」 環境社会学会</li> <li>「ホタルの生態と文化」 甲賀町鳥居野地区村づくり協議会講演会</li> </ul>	松阪市 甲賀町
8・7	<ul style="list-style-type: none"> <li>「Socio-Visual Approach to Rural Social and Environmental Changes」, International Rural Sociological Association, Bucharest:Rumania（農村環境変化への映像的接近－琵琶湖の事例より、国際農村社会学会）</li> <li>「琵琶湖博物館の理念と建設経緯」 ミュージアムマネジメント学会</li> </ul>	ルーマニア 東京都
8・9	<ul style="list-style-type: none"> <li>「環境と人間を考える」（パネリスト） 日本建築学会大会</li> <li>「地域からの本づくり」 能登川町ふるさと百科編集委員会</li> <li>「琵琶湖の環境保全と近畿－その百年の計を考える－」 国土庁国土審議会近畿圏整備特別委員会計画部会</li> </ul>	大津市 能登川町 大阪市
8・10	<ul style="list-style-type: none"> <li>「琵琶湖博物館建設の経緯と基本理念－環境展示とのかかわりで」 全国湖沼協議会研修会</li> <li>「写真が語る環境変遷」（コーディネータ） 前野隆資写真展記念パネルディスカッション</li> <li>「里山との新しい関係を求める」（パネリスト） 第2回琵琶湖博物館開館記念シンポジウム</li> <li>「博物館における情報システム」 京都新聞マルチメディア懇談会</li> <li>「近畿における琵琶湖」 ラジオ録音構成（朝日放送）</li> </ul>	草津市 大阪市 草津市 草津市
9・2	<ul style="list-style-type: none"> <li>「生活環境主義とは？－その理念と実践のいれこ構造について」 環境倫理研究会</li> </ul>	東京都
9・3	<ul style="list-style-type: none"> <li>「博物館の可能性と限界」（コーディネータ） 第3回琵琶湖博物館開館記念シンポジウム</li> <li>「環境を守る親と子のつどい」（コーディネータ） 湖東地区親と子のつどい</li> </ul>	草津市 彦根市

## 主任学芸員 高橋 啓一

年 月	タ イ ト ル 等	場 所
8・4	・「ステゴドンの臼歯と比較組織」(共同演者) 日本地質学会総会	東北大学(仙台市)
8・8	・「Implication of footprint fossils for the Plio-Pleistocene mammal fauna of the Japanese islands」30th International Geological Congress	北京(中国)
8・12	・「環境教育の現状と課題ー琵琶湖博物館の果たす役割」 県教育センター教職員研修	近江プラザホテル(彦根市)
9・2	・「琵琶湖博物館がめざすもの」 地学団体研究会京都支部例会	琵琶湖博物館(草津市)
9・2	・「何度来ても楽しい琵琶湖博物館」 彦根ロータリークラブ例会	琵琶湖博物館(草津市)
9・3	・「琵琶湖のおいたち」 能登川青年会議所例会	五個荘町農村整備改善センター(五個荘町)

## 主任学芸員 脇田 健一

8・7	・「琵琶湖の漁業と洞庭湖(中国)の漁業」	琵琶湖博物館(草津市)
8・11	琵琶湖博物館入門セミナー	
9・1	・「環境と人々の暮らし」地団研京都支部例会	琵琶湖博物館(草津市)
9・2	・「環境について考える」琵琶湖博物館入門セミナー水曜コース	琵琶湖博物館(草津市)
9・3	・「環境について考える」琵琶湖博物館入門セミナー土曜コース	琵琶湖博物館(草津市)
	・「琵琶湖の環境問題と石けん運動ー住民参加とは何か?」 柏原市粉石けんを推進する会施設見学会	琵琶湖博物館(草津市)
	・「博物館の楽しみ方」 琵琶湖博物館シンポジウム	

## 学芸員 八尋 克郎

8・6	・「ホタルの分類と生態」 琵琶湖博物館自然観察会	守山市民ホール(守山市)
8・7	・「夏の昆虫」 野洲町自然観察会	近江富士花緑公園(野洲町)
	・「オサムシ研究の面白さ」 びわ科学懇談会	琵琶湖研究所(大津市)
8・11	・「韓国済州島のオサムシ・ゴミムシ相」 トンボ研究会例会	琵琶湖博物館(草津市)

## 応用地域研究系

## 主任学芸員 前畑 政善

8・5	・「日本産希少淡水魚6種・亜種の継代繁殖」 (社)日本動物園水族館協会第40回総会(古賀賞受賞記念講演)	ホテルシーガルてんぼー ざん大阪(大阪市)
8・7	・「びわ湖の話」 親子フォーラム 中央っ子まつり	大津市立中央小学校(大津市)
8・8	・「琵琶湖の魚たち」成人病センター看護部夏期研修	ホテルロイヤルオーク(大津市)
	・「琵琶湖の魚 今昔」平成8年度 郷土再発見講座 能登川	防災コミュニティホール(能登川町)
	・「淡水魚入門講座 魚類の進化」 大阪シニア自然大学	大阪市民学習ルーム(大阪市)



### 3 交流・サービス活動

博物館の研究や資料収集などの成果をできるだけ多くの利用者に伝え、博物館をうまく有効に利用してもらうことで、博物館と利用者との双方向の情報交換と交流を行う場をつくり上げていくため自然観察会や博物館入門セミナー、あるいは学校教育との連携のための教育研修の受け入れなどさまざまな活動を実施した。

#### (1) 観察会・見学会等

平成8年度は、観察会16件、博物館探検4件の合計20件の行事を計画した。うち3件は参加者が十分集まらなかったものや、他地域でのO-157の発生によりやむなく中止した。事業のテーマや参加者数は下表のとおりである。

##### ア. 観察会・見学会

テーマ	観察地	実施日	参加者数	講師
1. ホテルのお宿	守山市	6月14日(金)	26	八尋, 嘉田
2. 武奈岳の初夏の植物	武奈岳	6月23日(日)	中止	布谷, 村瀬
3. 烏丸半島の湖岸を歩く	烏丸半島湖岸	7月1日(月)	15	布谷, 楠岡
4. 川の生きもの探検	近江町	7月13日(土)	20	藤岡, 楠岡, 芳賀, 森井, 中井
5. ミクロな生きもの探検	琵琶湖博物館	7月20日(土)	6	楠岡, 芳賀
6. 琵琶湖の魚は何を食べているか	琵琶湖博物館とその周辺	7月27日(土)	20	芳賀, 楠岡
7. 川をさかのぼってみよう	マキノ町	7月28日(日)	中止	小笠原, 内田
8. 川の魚つかみ	安曇川町	8月3日(土)	48	藤岡, 森井, 楠岡, 内田, 秋山, 芦谷, 小笠原, 中藤
9. かいどり大作戦	蒲生町	8月10日(土)	中止	森井, 高橋政, 藤岡,
10. 琵琶湖の貝を調べてみよう	琵琶湖博物館周辺	8月25日(日)	53	松田, 早川, 高橋政, 中井, 中藤, 小関ほか
11. 木の実で遊ぼう	近江神宮とその周辺	11月9日(土)	18	草加, 中藤ほか
12. 化石の採集	三重県大山田村	11月17日(日)	37	中島, 高橋啓, 山崎, 宮本, 小笠原ほか
13. 植物化石の調べ方	琵琶湖博物館	12月7日(土)	30	木田, 中藤ほか
14. 烏丸半島の水鳥	琵琶湖博物館周辺	1月15日(水)	16	亀田, 楠岡, 芳賀ほか
15. あなたも今日から骨博士	琵琶湖博物館	2月9日(日)	46	高橋啓一ほか4名
16. ヨシ笛を作ってみよう	〃	3月9日(日)	36	脇田, 芦谷, 芳賀



フィールド観察会「川の魚つかみ」



ミュージアム観察会「植物化石の調べ方」



## イ. 博物館探検

テーマ	観 察 地	実 施 日	参加者数	講 師
1. 博物館の舞台裏	琵琶湖博物館	6月22日(土)	13	布谷, 高橋政, 松田
2. 博物館の舞台裏	〃	11月23日(土)	28	布谷, 高橋政
3. 歴史展示の舞台裏	〃	2月22日(土)	36	用田, 橋本, 中藤
4. 水族館探検隊	〃	3月23日(日)	50	藤岡, 前畑, 秋山, 松田, 桑原

### (2) 質問コーナー・フロアトーク

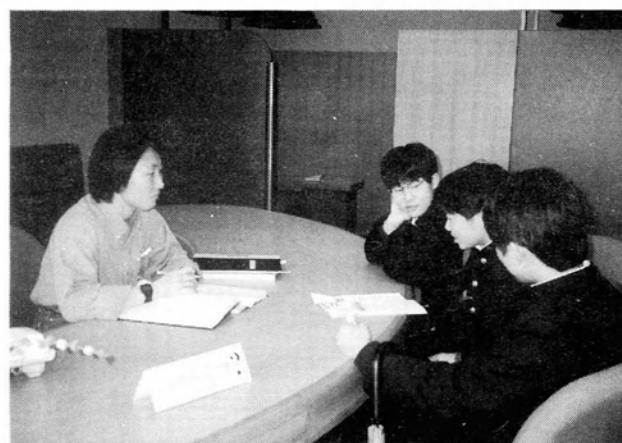
当館では、開館当初から“学芸員の顔が見える博物館”づくりを目指しているが、その一環として、情報センターの一角に「質問コーナー」を設置した。そして、開館日には学芸員が日替わりでここに常駐して、一般の方々からの質問に回答した。なお、担当学芸員が回答可能な質問についてはその場で答え、わからない質問についてはそれぞれの専門の学芸員から回答した。質問内容についてのデータは、表1に示したとおり、開館日から3月末までの163日間で613件（3.76件/日）の質問があった。質問件数が多いのは、入館者数の多い土・日曜日に偏り、平日は少ない傾向にあった。全般的に質問件数が少ないと考えられるが、これは本コーナーの存在が来館者にまだ十分に周知されていないことによるものと思われる。なお、質問コーナーの担当学芸員は、当日の午後2時から約30分間、それぞれの担当の展示室にたち、展示の内容や展示品そのものについて解説する「フロアトーク」を実施した。ただし、土、日、祝日は展示室の混雑が予想されるので実施しないこととした。本事業は、来館者にたいへん好評で、多いときに30人以上もの聴講者が学芸員の説明に聞き入っていた。

質問コーナー以外にも日常的に電話等で問い合わせがあるが、それらに関しては事務学芸室においてある質問対応記録簿に随時質問に対応した学芸員が結果を記録するようにしている。その集計結果は表2に示したように、318日間（1996年5月18日～1997年3月31日）に、89件あった。（ただし、未記録の質問も相当あると思われる。）

今後はこうした質問内容をまとめ、これまで以上に迅速に質問に対応できるような体制づくりを目指していく必要がある。



フロアトーク



質問コーナー

表1.質問コーナーでの質問データ集計表

期 間	1996年10月20日 ～ 1997年 3月31日 (163日間)				
総質問数	613件 (3.76件/日)				
質問内容	一般的な質問 (総合案内で回答できるようなもの)				68件
	専門的な質問				545件
対 応	担当学芸員が対応				508件
	専門(または外部)学芸員に依頼				105件
専門的な質問の内容の内訳					
生 物	動 物	水族(魚)	151(120)件	プランクトン	8件
		水生昆虫	5件	動物一般	24件
	植 物	陸上植物			12件
		水 草			3件
地 学		40件	図 書		63件
物 理		2件	琵琶湖		33件
歴 史		11件	環 境		29件
民 俗		18件	その他の質問		146件

表2.質問コーナー以外(質問応対簿)での質問データ集計表

期 間	1996年5月18日 ～ 1997年 3月31日 (318日間)				
総質問数	89件 (0.28件/日)				
質問内容	一般的な質問 (総合案内で回答できるようなもの)				1件
	専門的な質問				88件
対 応	学芸員が対応				89件
専門的な質問の内容の内訳					
生 物	動 物	水族(魚)	44(41)件	プランクトン	1件
		水生昆虫	7件	動物一般	16件
	植 物	陸上植物			8件
		水 草			3件
歴 史		2件	琵琶湖		3件
民 俗		2件	その他		2件

### (3) 教育研修会関係

平成8年度に当館において行われた教育研修は、合計44件(参加者総数1,834人)であった。こうした研修会では、当館学芸員が当館の展示概要や設置意図の説明のみならず、教育機関がどのように当館を利用可能かについても解説を行った。

#### 平成8年度 琵琶湖博物館における教員研修

月 日	団 体 名	参加者数
5月 7日	滋賀県中学校教育研究会理科部会幹事会	5
6月21日	蒲生郡中学校教育研究会理科部会	10
7月18日	滋賀県総合教育センター所員研修	40
25日	草津市教育研究所研修	50
8月 1日	滋賀県中学校教育研究会環境教育部会	35
2日	彦根市小・中学校理科主任会	56

月 日	団 体 名	参加者数
8月 2日	長浜市小・中学校社会科現地研究会	30
5日	信楽町小・中学校理科研究会	15
6日	大津市中学校教育研究会理科部会	10
	長浜市小・中学校理科部会	15
8日	草津市立常磐小学校校内研修	30
9日	守山市小・中学校理科部会	30
	野洲郡小・中学校理科部会	20
	奈良県吉野郡小・中学校理科研究会	15
13日	朽木村教育委員会教員研修	25
20日	滋賀県地理教育研究会	20
22日	栗東町立治田西小学校校内研修	20
10月 4日	甲賀郡小・中学校環境教育部会	25
11月 6日	高等学校事務職員研修会	40
7日	滋賀大学付属中学校英語科教員研修	5
12日	滋賀県総合教育センター主催教頭研修	88
13日	関西地区商業科高等学校教員研修	20
15日	滋賀県総合教育センター主催環境教育講座	40
16日	滋賀県県中学校校長会	80
22日	滋賀県総合教育センター主催化学講座	25
12月 3日	湖西地区高等学校初任者研修	23
	総合教育センター主催教職経験者研修	320
5日	総合教育センター主催教職経験者研修	320
11日	草津市草津第2小学校校内研修	35
25日	坂田郡小・中学校環境教育部会	15
1月 8日	草津市矢倉小学校校内研修	19
10日	滋賀県高等学校校長協会	68
	守口市教育研究会理科部会研修	15
14日	奈良県宇陀郡理科教育研究会研修	12
17日	蒲生郡小・中学校環境教育部会研修	15
29日	栗東町立大宝小学校教員研修	20
2月 7日	犬上郡小・中学校教務主任会研修	10
25日	高等学校教育研究会社会科部会研修	25
26日	近教県連生活科・社会科現地研修	20
28日	蒲生郡竜王中学校校内研修	35
	草津市内小・中学校環境教育部会研修	18
3月 4日	滋賀県中学校教育研究会社会科部会	25
9日	京都市青少年科学センター研修	20
11日	京都府生物教育会	70
合 計	44件	1,834

#### (4) 体験学習プログラムの作成

本年度は、平成9年度からの実施をめざし、第2、第4土曜日の体験学習の日向けの学習プログラムの計画策定を行った。なお、本年は学校教育の一環として来館する団体向けに学習用ワークシートをいくつか作成の上、利用していただいた。

#### (5) 博物館入門セミナー

このセミナーは、琵琶湖博物館の展示や活動の内容について、実際に展示をつくってきた学芸員が解説をし、参加者により博物館に親んでもらうためのものである。また、将来博物館の活動に何らかの形で関わっていきたいという方にも、“博物館で何ができるか、何をしたいか”を考えてもらう

機会を提供するという狙いもある。平成8年度には、博物館準備室時代であった前年に引き続いて第二期、第三期入門セミナーを開催した。その詳細は下記に示した。第二期の登録者数が6名と少なかったのは、当館の開館前であり、バス等の定期路線がなかったので、参加者の交通手段が確保されなかったことが影響したと考えられる。

### 第二期 博物館入門セミナー 『湖と人と博物館』

- 日程と内容：下表参照 午後1時30分～  
午後4時30分（3時間）
- 対象者：18才以上の社会人で、原則として全6回参加可能な方（定員20名）
- 場 所：琵琶湖博物館 会議室
- 講 師：琵琶湖博物館学芸員
- 参加料：無料



博物館入門セミナー

[登録者数 6名]

回	日程	講義タイトル	担当学芸員	参加者数
1	6月12日(水)	講座1 琵琶湖博物館てどんなところ？	布谷, 芦谷	5
2	6月19日(水)	講座2 琵琶湖のおいたちを調べてみよう 〈化石の観察〉	山崎, 宮本, 中島, 木田, 高橋	11
3	6月26日(水)	講座3 琵琶湖の治水 講座4 琵琶湖博物館所蔵の民具について	小笠原, 中藤, 細川	5
4	7月3日(水)	講座5 琵琶湖の漁業と洞庭湖(中国)の漁業	藤岡, 脇田, 中藤	12
5	7月10日(水)	講座6 琵琶湖博物館の水族展示	秋山	7
6	7月17日(水)	講座6 琵琶湖博物館をどう利用するか？ 〈ディスカッション〉	布谷, 芦谷	8

### 第三期 博物館入門セミナー 『湖と人と博物館』

- 日程と内容：下表参照 午後2時30分～午後5時（2時間30分）  
（水曜コース/土曜コース）
- 対象者：18才以上の社会人で、原則として全8回参加可能な方（定員30名）
- 場 所：琵琶湖博物館 セミナー室または実習室
- 講 師：琵琶湖博物館学芸員
- 参加料：無料

[登録者数 水曜コース 27名 土曜コース 26名]

回	日 程		講 義 タ イ ト ル	担当学芸員	参加者数	
	土曜コース	水曜コース			土曜	水曜
1	11月 2日	11月 6日	開講式 琵琶湖博物館でどんなところ？	布谷, 芦谷	21	26
2	11月16日	11月20日	土の中の花粉化石から過去を読む！	宮本ほか	19	26
3	11月30日		粟津貝塚と瀬田唐橋	用田	20	
		12月 4日	くらしとむすびついた自然	布谷		26
4	12月14日		プランクトン実習	楠岡, 芳賀	19	
		12月18日	プランクトン実習 丸子船ができるまで(補講)	楠岡, 芳賀 牧野		24
5	1月18日	1月22日	環境について考えてみよう	脇田	20	5
6	2月 1日	2月 5日	湖水の流れをめぐって	戸田	17	25
7	2月15日	—	琵琶湖の環境と魚たち ズナガニゴイの繁殖行動 希少淡水魚たちの繁殖	藤岡 秋山 松田	17	—
		2月19日	琵琶湖の環境と魚たち コアユの生活史と湖環境への適応 ビワマスの繁殖行動 環境について考えてみよう(補講)	前畑 藤岡 松田 脇田	—	23 15
8	3月 1日	3月 5日	琵琶湖博物館についての意見交換 修了式	芳賀, 中藤(土) 布谷, 芦谷(水)	17	17
9	3月20日	修了記念 (土曜, 水曜コース合同懇談会)		館長, 学芸員	8	13

(6) 交流センター関連印刷物の発行

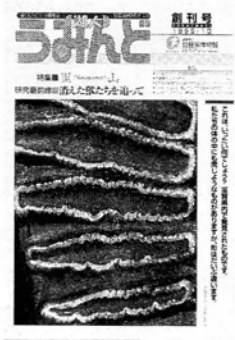
本年度は、交流関連印刷物として教師用ガイドブック「琵琶湖博物館利用の手引き」、博物館だより「うみんど」(大人用)、「うみっこ」(子ども用)を発行しました。内容は以下のとおりです。

印刷物名	発行部数(部)
琵琶湖博物館利用の手引き	4,000
うみんど(大人用)	100,000
うみっこ(子ども用)	50,000

1



2



3



- 1 教育指導者向けの博物館手引き
- 2 琵琶湖博物館の機関紙
- 3 小ども向けの琵琶湖博物館機関紙

(7) その他

友の会やボランティアについては、現在、そのあり方や問題点を現実に照らして検討した。

## 4 情報活動

最新のハードウェアとソフトウェアを活用し、“博情報館”として機能できる基本情報システムの構築をめざしている。そのため、来館者向け閲覧用図書の整備や映像情報のデジタル化ならびに研究支援を図りながら、地図情報や文字情報と合わせて検索や利用を可能にするとともに、通信網を通じて博物館利用者や類似施設とのネットワーク化を図ることに努めた。

### (1) 情報センターの整備およびサービス

情報センター内の図書室および情報利用室を来館者が利用しやすいように整備し、平成8年10月の開館と同時に運用を開始した。

#### ア 図書室

単行本、約5,000冊および雑誌、約50タイトルを開架式で提供し、要望に応じて閉架式資料も提供した。

図書室利用者について、平成8年11月（開館日数22日）に調査を実施した結果、利用割合は9.3%であった。（図書室利用者 10,440人／図書館入館者 111,351人）

#### イ 情報利用室

情報末端を利用者自身が操作することにより、常設展示室のマルチメディア資料のほか情報利用室専用の長時間番組や博物館資料の検索プログラムの利用を図った。

### (2) 通信網を利用したサービス

#### ア ファックス情報提供サービス

家庭のファックスから電話回線で接続して利用できる展示案内・行事案内・交通案内などの情報提供サービスを平成8年5月から運用開始した。

#### イ インターネット・ホームページの開設

インターネットを経由して博物館に接続できる展示案内・行事案内・交通案内などの情報提供サービスを平成8年12月から運用開始した。

### (3) 博物館職員による利用

博物館の諸活動を支えるため、収蔵品・文書情報・図書文献資料・名簿の各データベースシステムを運用し、館内ネットワークにより事務室・研究室・収蔵庫などの各室から共通に利用できるように整備を進めた。

(4) 図書、映像資料

ア 図書等

(冊)

(ア) 図書

区 分	平成7年度末	平成8年度	合 計
購入図書	10,055	2,854	12,909
寄贈図書	35,495	15,713	51,208
合 計	45,550	18,567	64,117

洋書所蔵数 622冊

中国・韓国書所蔵数 268冊

(イ) 定期購読雑誌 (タイトル数)

雑 誌	タイトル数	合 計
和 雑誌	93	198
洋 雑誌	87	
中国雑誌	18	

(ウ) 文献所蔵数 17,382件

イ 映像資料

(ア) 映像資料

(点)

区 分	平成7年度末	平成8年度	合 計
動画資料	350	48	398
静止画資料	56,654	3,000	59,654
合 計	57,004	3,048	60,052
C D入力点数	49,558	7,904	57,464

(イ) 制作動画資料

- ニュース短縮版「今週のびわ湖」 (5分) × 39本
- 博物館ができるまで (24分)
- 博物館の展示ができるまで (40分)
- 準備室なれど博物館 (29分)
- 滋賀の自然と人の暮らし (15分)
- 伊吹山の植物 (4分)
- 田んぼと赤とんぼ (15分)

(ウ) 映像購入動画資料

- 北国からの使者 カモの仲間たち (6分)
- メダカの学校 いまどこに (6分)
- ため池の自然 水草はいま! (6分)

## (5) 情報システムの構築

データベースの蓄積・学芸職員の習熟期間の確保・システム細部仕様の確定などを行うため、準備室時代の平成4年度から年次進行でシステム整備を進めながら運用を続けてきたが、平成8年度は、その第5期整備計画として、開館に向けての最終的なシステム整備を行った。その主要構成機器・開発ソフトウェアは以下のとおりである。

### 《第1工区》ネットワークシステム

ハードウェア：インテリジェントスイッチングハブ FORE PowerHub7000 1台

インテリジェントハブ CONTEC RT-1216S 7台

ターミナルサーバ Shiva SpiderPort 5台

関連既存機器：ターミナルサーバ ARNET SmartPort16 1台（第1期）

ターミナルサーバ Shiva SpiderPort 1台（第2期）

10BaseTハブ NetOne MOA-0080 2台（第2期および第3期）

10BaseFL光LANネットワーク幹線（第4期）

館内統合配線網（建築工事）

### 《第2工区》管理運営支援制御システム

ソフトウェア：画像受入システム、頻出質問DB、気象観測DB、

水族水槽監視データ受入システム、

琵琶湖博物館案内インターネットホームページ

関連既存機器：文書管理システム、収蔵品DB、生物種DB、入力履歴管理システム、

映像DB（第1期）

画像DB、保守記録・利用申請・セキュリティ管理システム、

地理情報システム（基本背景図システム）、

画像通信端末ソフト（第2期）

アップロード・ダウンロードシステム、生物種DBリンクシステム、

名簿DB、地理情報システム（収蔵品DBリンクシステム、

メッシュ・ラスタ・ポリゴン化地図システム、

スタンドアロン表示システム）（第3期）

ファックス通信システム、

パソコン通信ゲートウェイシステム（第4期）

（DBはデータベースの略）

### 《第3工区》文字情報サーバシステム

ハードウェア：OpenMサーバ 4台（データベース1台、ユーザインタフェース3台）

ソフトウェア：インターネットサーバ用データ提供システム、自動運転システム

関連既存機器：DT-MAXサーバ 2台（第1期および第3期）

### 《第4工区》静止画情報サーバシステム

ハードウェア：SONY NWS-7000B+38.7GB大容量ディスクアレイNWP-7600 1台



インターネットルータ CISCO2501 1台

関連既存機器：SONY NWS-5000TG 1台（第2期、第3期でディスク増設）

《第5工区》情報利用サーバシステム

ハードウェア：デジタルLDオートチェンジャ POINEER DLC-V250 1台

ビデオサーバ IBM PowerMediaStreamer 1台

ライブラリマネージャ IBM PCServer320 1台

ソフトウェア：情報利用室総合メニューシステム、情報利用室用情報提供システム、  
情報利用室総合案内用自動運転デモシステム

《第6工区》情報利用室端末システム

ハードウェア：PowerMac8500/150 13台

《第7工区》来館者対応用端末システム

ハードウェア：PowerMac7600/120 4台、PowerMac7200/120 6台

《第8工区》事業運営用印刷システム

ハードウェア：OKI MicroLine803PS II V+F 1台、OKI MicroLine802PS II V+F 3台

OKI MicroLine810PS II V+LT 4台、OKI MicrolineC7300PS II +F 1台

EPSON LP-8200 4台、EPSON LP-1700 7台

関連既存機器：CANON LaserShotB406S 1台（平成3年度事務備品）

OKI MicroLine801PS 1台（第1期）

EPSON LP-8000 1台、FUJIX Pictrography3000 1台（第2期）

SONY NWP-5501 1台、Canon BJC600J 1台、LFR Mark III 1台（第3期）

EPSON LP-1000 2台（第4期）

《第9工区》事業運営用文字情報端末システム

ハードウェア：PC-9821La10/5 10台、PC-9821Xa16/W30 3台

関連既存機器：NEC PC-9801DA 1台（平成2年度事務備品）

EPSON PC-386NA 2台（平成3年度事務備品）

NEC PC-9801US 1台、PC-9801NS/T40 3台（第1期）

NEC PC-9821As2/U7W 1台、NEC PC-9801NX120/C 4台（第2期）

NEC PC-9821Ne3 7台（第4期）

《第10工区》事業運営用画像情報端末システム

ハードウェア：MacintoshPowerBook1400c/133 10台

PowerMacintosh7600/166 2台、PowerMacintosh7200/120 3台

関連既存機器：MacintoshLC2 1台、MacintoshIci 1台（第1期）

MacintoshQuadra840AV 1台（第2期）

MacintoshPowerBookDuo280C 4台（第3期）

MacintoshPowerBook550c 10台（第4期）

## 5 資料整備活動

### (1) 方針

琵琶湖博物館では、「琵琶湖とその集水域および淀川流域」およびその全体的評価にかかわるもの、ならびに博物館のテーマ「湖と人間」に関係する日本、アジア、世界の湖沼とその周辺地域におよぶ自然、人文、社会科学等にかかる過去から現在までの実物の資料、生魚などの水族資料、映像資料、図書資料および博物館業務に必要な資料の収集、整理保管、および利用をはかり、博物館活動の充実につとめている。

収集は、博物館職員による収集、受贈、受託、交換、購入、製作、提供、参加型調査等によって行い、これらを必要な時にただちに利用できるよう、各資料区分ごとの体系に従って整理し、長期間にわたり安全に良好な状態を保てるよう保管している。またその資料は、保存に影響を与えない範囲で、展示、閲覧および貸出等に利用している。

### (2) 収蔵資料点数

ア 地学標本	約12,000点
岩 石	約1,600点
化 石	9,121点
ボーリング資料	1,250点
イ 植物標本	約68,000点
陸生植物	約66,000点
水生植物	約2,000点
ウ 動物標本	約26,800点
貝	約5,000点
昆 虫	約21,600点
脊椎動物	180点
エ 液浸標本	約48,300本
微 生 物	約200本
貝	約100本
昆 虫 等	約18,000本
魚	約30,000本
オ 考古資料	約2,000点
カ 歴史資料	約400点
キ 民俗資料	約7,400点
滋賀県内有形民俗文化財資料	6,514点
小牧家提供民具	約700点
提供漁具等	200点

ク 環境資料	約12,000点
環境教育の成果品等	約2,000点
環境に関するアンケート等	約10,000点
ケ 水族資料	180種 約30,000尾
	合計 約206,900点

### (3) 新規資料収集

#### ア 収集、提供

村瀬忠義植物標本	約40,000点
滋賀県産甲虫標本	約8,900点
オサムシ等甲虫標本	約1,100点
日本産チョウ・ガ類昆虫標本	約300点
近畿産水生昆虫液浸標本	約800本
滋賀県産鳥類標本	20点
民具資料	41件 91点

#### イ 受 贈

琵琶湖産カワニナ類貝類標本	16点
---------------	-----

(完模式標本8点を含む)

#### ウ 交 換

本館所蔵古琵琶湖層群産化石と瑞浪層群産化石を交換	15点
--------------------------	-----

#### エ 購 入

比較参照用甲虫類・チョウ類昆虫化石	320点
同貝類貝類標本	210点
ブラジル産魚類水族資料	30種 約200尾
琵琶湖産魚類細密画資料	19点
日吉山王祭礼図屏風ほか歴史資料	10件 11点

#### オ 製 作

琵琶湖木造船模型	7点
脊椎動物化石レプリカ	40点
県内産古脊椎動物剥製および骨格標本	14点
液浸魚類標本レプリカ	3点

#### カ 参加型調査

「春をさがしてみませんか」調査情報	一般650件
同	小学生 1,200件

### (4) 資料整理

資料の整理は、データの添付、標本製作、保存処理、修復、補修、同定・鑑定、収納、登録、燻蒸、

損害保険等の手続きを含む。これらの詳細は、各資料の区分ごとに方針・要領によって定められ実施した。

#### ア 地学標本

地学標本 約12,000点収納

友田氏魚化石 250点 同定、再収納

#### イ 植物標本

桑島氏植物標本 約5,000点 マウント、ラベル添付、燻蒸

#### ウ 動物標本

滋賀県産甲虫標本 約3,100点 展足、ラベル添付、燻蒸、収納

オサムシ等甲虫標本 約600点 同定、燻蒸、収納

日本産チョウ・ガ類昆虫標本 約500点 展翅、ラベル添付、燻蒸、収納

#### エ 液浸標本

近畿産水生昆虫液浸標本 約800本 小分け、ラベル添付、粗同定、収納

河野光子カワゲラ標本 約3,000本 小分け、ラベル添付、粗同定

水生昆虫等液浸標本 約17,000本 アルコール液点検・補充、収納

魚類標本 約4,000本 保存液交換

#### オ 考古資料

松原内湖遺跡出土資料 搬入、仮分類、仮配架

唐橋遺跡出土資料 搬入、仮分類、仮配架

中畑遺跡出土資料 搬入、仮分類、仮配架

その他資料 搬入、仮配架 合計1,968点

#### カ 民俗資料

民具資料 約7,400点 搬入、梱包解き、燻蒸、大分類、仮配架、一部補修・保存、一部部材照合、一部登録番号照会

#### キ 環境資料

展示関係資料 約12,000点 搬入、配架、燻蒸

### (5) 燻 蒸

資料に付着する成虫・卵・蛹および黴等、資料保存のために有害な生物の殺虫防除を目的に、収蔵庫燻蒸、展示室燻蒸および燻蒸庫燻蒸を行った。

収蔵庫のガス燻蒸は平成8年9月14日から16日まで、特別、同前室、一時保管、同前室、植物、動物、民俗1、民俗2、環境の各収蔵庫について実施し、展示室の簡易ガス燻蒸も企画展示室およびB展示室において、同時期に行った。

燻蒸庫における新規搬入資料のガス燻蒸は、平成9年1月と3月の2回実施した。

(6) 保存環境調査

博物館として資料に良好な保存環境を作り上げてこれを維持するため、平成4年度から文化庁および東京国立文化財研究所の指導と助言を受けて、各種の検討と調査、測定を行っている。

特に文化財に影響を及ぼすと考えられる温湿度、酸やアルカリによる空気汚染、照明、生物被害について行って来た。

平成8年度は、測定指示薬含浸濾紙法による環境調査を8月までは月に2回、それ以後は月に1回、特別収蔵庫、一時保管庫、映像収蔵庫、民俗収蔵庫、写場、企画展示室、常設展示室、古文書整理室を中心に行い、それらの結果をもとに6月と8月に東京国立文化財研究所の指導を受けた。

また、シグマII型温湿度記録計による3日間連続測定を年間を通して継続して行った。

(7) 収蔵資料の貸出

貸出先	期間	資料
全電通労働組合	7月16日～7月18日	ビワコオオナマズほか
県立安土城考古博物館	2月4日～4月14日	松原内湖遺跡縄文土器
国立歴史民俗博物館	3月10日～6月13日	唐橋遺跡出土無文銀銭

(8) 資料調査協力員

琵琶湖博物館の展示、調査・研究、情報、交流・サービス事業など博物館活動に必要な資料・情報の調査、収集等の協力を求めるため、琵琶湖博物館資料調査協力員を選任し、博物館活動への協力を依頼している。

平成8年度は、環境系16名、歴史系9名、水族系8名、計33名に協力をお願いして、各種情報・資料の提供を受けた。

資料調査協力員名簿

氏名	専門	所属
環境系 武田 栄夫	気象・気候	日本気象協会関西本部
本郷 次雄	菌類	滋賀大学
青木 繁	種子植物	県立朽木いきものふれあいの里
蓮 沼 修	高等植物	栗東自然観察の森
西田 謙二	高等植物	県立国際情報高校
澤田 弘行	ため池・昆虫	
富長 議	貝・昆虫	栗東自然観察の森
南 尊演	植物・昆虫	県立東大津高校
細井 正史	昆虫(蝶類)	
白杉 滋朗	昆虫(甲虫)	
松井 正文	両生類・爬虫類	京都大学
口分田 政博	鳥類・水生昆虫	滋賀文教短期大学
中川 真澄	地域社会史	山東町立山東東小学校

	氏 名	専 門	所 属
歴史系	藤 本 勝 行	昆虫 (蜻蛉類・甲虫)	藤本石油
	遠 藤 真 樹	昆虫 (蝶類)	
	武 田 滋	昆虫 (甲虫)	
	土 井 通 弘	書跡・典籍	県立琵琶湖文化館
	白 井 忠 雄	民俗学	高島町立歴史民俗資料館
	大 沼 芳 幸	民俗学	滋賀県教育委員会
	中 井 均	考古学	米原町教育委員会
	横 田 洋 三	考古学	滋賀県文化財保護協会
	八 杉 淳	文献史学	草津市街道文化情報センター
	森 容 子	民俗学	湖東町立歴史民俗資料館
水族系	高 梨 純 次	美術史	県立近代美術館
	中 川 正 人	保存科学	滋賀県埋蔵文化財センター
	紀 平 肇	淡水貝類	清風学園
	高 橋 さち子	魚 類	龍谷大学
	松 田 尚 一	魚 類	湖南漁業協同組合
	国 友 保	魚 類	守山漁業協同組合
	松 岡 正 一	魚 類	朝日漁業協同組合
	西 井 孝 夫	魚 類	浜分漁業協同組合
	福 沢 常 一	魚 類	安土漁業協同組合
	鷺 飼 新 八	魚 類	大津漁業協同組合

#### (9) 資料評価委員

博物館として重要な資料の購入や受贈等にあたって、博物館資料としての学術的評価と価格評価を行うため、あらかじめ選定しておいた33名からなる資料評価者名簿をもとにしながら資料評価委員を選任し、資料評価を依頼している。

平成8年度は、資料購入にあたって3件の資料評価を受けた。

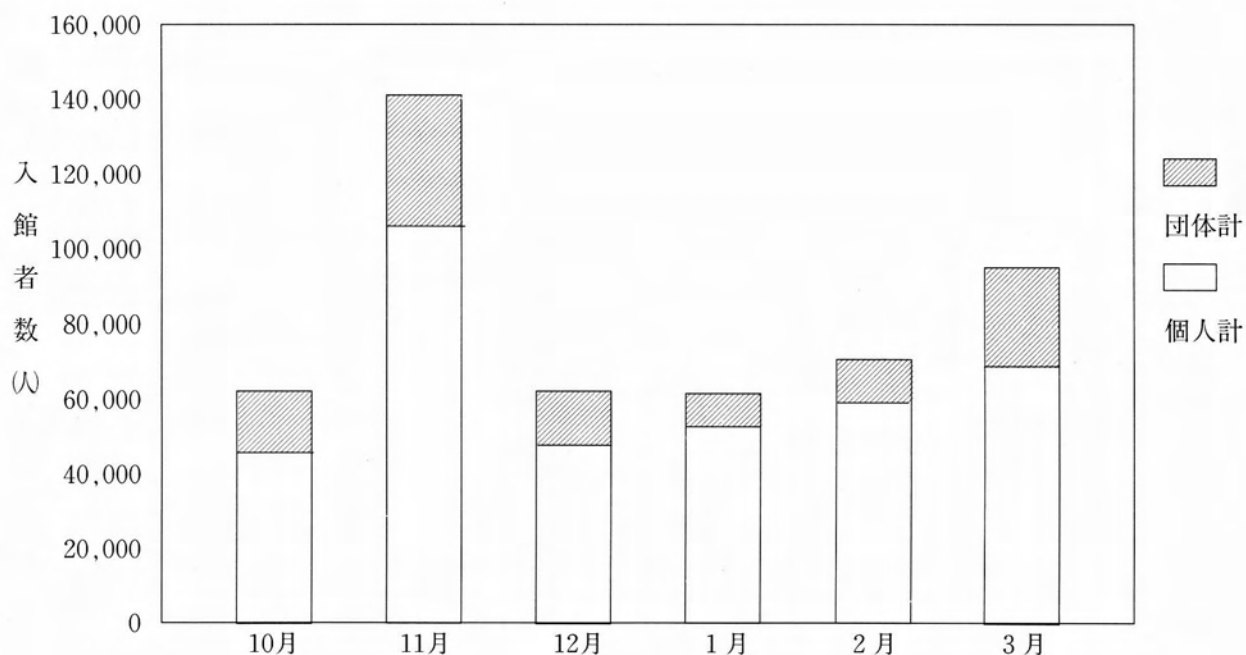
### Ⅲ 利用状況

#### 1 平成8年度入館者数

##### (1) 総入館者数

年 月	開催 日数 (日)	有 料 入 館 (人)				無 料 入 館 (人)								総計 (人)	1日当 り平均 (人)
		一 般	高大学生	小中学生	有料計	65歳 以上	身障者	家庭 の日	体験 学習	学校 行事	その他	無料計			
8	10	11	45,104	1,688	6,669	53,461	2,409	654	1,310	336	4,158	91	8,958	62,419	5,674
8	11	26	105,117	3,798	19,181	128,096	4,769	862	1,812	340	4,824	425	13,032	141,128	5,428
8	12	23	47,081	2,020	8,105	57,206	1,760	443	944	90	1,699	288	5,224	62,430	2,714
9	1	22	47,353	1,420	9,182	57,955	1,311	306	540	95	787	672	3,711	61,666	2,803
9	2	23	53,550	2,081	9,930	65,561	2,045	658	541	158	1,631	123	5,156	70,717	3,075
9	3	25	68,770	3,371	17,150	89,291	3,000	1,248	460	184	718	338	5,948	95,239	3,810
計		130	366,975	14,378	70,217	451,570	15,294	4,171	5,607	1,203	13,817	1,937	42,029	493,599	3,797
1日当り平均			2,823	111	540	3,474	118	32	43	9	106	15	323	3,797	—

琵琶湖博物館月別入館者数



## (2) 学校等入館者数

年 月	小 学 校		中 学 校		高 校		その他学校		総 計	
	学校名	人 数	学校名	人 数	学校名	人 数	学校名	人 数	学校名	人 数
8 10	60	4,890	4	518	2	95	2	72	68	5,575
	51	4,112	1	154	1	10	2	72	55	4,348
8 11	49	3,447	23	3,111	5	771	7	108	84	7,437
	40	2,818	12	1,456	2	258	7	108	61	4,640
8 12	8	454	3	135	7	356	5	71	23	1,016
	5	432	3	135	6	267	5	71	19	905
9 1	5	522	3	22	2	375	1	21	11	940
	3	267	2	6	2	375	1	21	8	669
9 2	28	2,111	3	183	4	221	7	187	42	2,702
	18	1,371	2	151	1	103	6	175	27	1,800
9 3	14	722	9	412	6	571	6	112	35	1,817
	4	149	6	98	4	454	3	79	17	780
計	164	12,146	45	4,381	26	2,389	28	571	263	19,487
	121	9,149	26	2,000	16	1,467	24	526	187	13,142
県内の割合	74%	75%	58%	46%	62%	61%	86%	92%	71%	67%

上段 (全体)

下段 (うち県内)

## (3) 曜日別入館者数

(人)

年 月	日曜・祝祭日	土曜日(祝日除く)	そ の 他	計	1 日 平 均
8 10	22,299	9,617	30,503	62,419	5,674
8 11	68,842	23,124	49,162	141,128	5,428
8 12	32,312	9,600	20,518	62,430	2,714
9 1	38,585	10,392	12,689	61,666	2,803
9 2	40,666	12,846	17,205	70,717	3,075
9 3	44,841	20,451	29,947	95,239	3,810
計	247,545	86,030	160,024	493,599	3,797
構成割合	50.2%	17.4%	32.4%	100%	—

## (4) 企画展入場者調

企画展名	里山-生命の小宇宙	里山の水生生物	博物館ができるまで	ブラジルの淡水魚
会期	10/20(日)～1/19(日)	10/20(日)～1/19(日)	3/8(日)～3/30(日)  4/27(日)	3/11(火)～3/30(日)  4/20(日)
延日数	72日	72日	19日	17日
入場者数	39,015人	(常設展示に含まれる。)	9,717人	(常設展示に含まれる。)
1日平均	542人	(常設展示に含まれる。)	511人	(常設展示に含まれる。)



## 2 来館者アンケート結果報告

### (1) 経 過

3月19日(水)、20日(祝)の2日間に実施。来館者全員にアンケートをくばり、出口で回収。総回答数は1,380人(3月19日:502人、3月20日:878人)。回収率は、3月19日が29.7%、3月20日が14.1%、両日通しの回収率は17.5%。

### (2) 結 果

ア リピート客割合は16%

「来館は何度目か?」という質問に対する回答。全体の84%がはじめてであるが、16%はリピータ。

はじめて	2回目	3回目	4回以上	不明	合計
1,141	310	36	18	16	1,380
(83.7%)	(12.4%)	(2.6%)	(1.3%)		

(1,364を100%とする割合)

イ 情報源は口こみ(友人、家族)とテレビ、行政による広報

「博物館を何で知ったか?」という質問に対する回答。最も多いのは友人(25%)、2番目がテレビ、3番目が家族であり、その他の中には団体で一度来館したという回答が多い。(複数回答あり)

新聞	テレビ	ラジオ	行政広報	雑誌	友人	家族	その他	合計
214	310	33	231	177	334	284	143	1,726
15.8%	22.8%	2.4%	17.0%	13.0%	24.5%	20.9%	10.5%	

(記入者1,357名を母集団とする)

ウ 若者が多い来館者

区分	実数	割合
10才未満	138	10.2
10~19才	240	17.7
20~29才	276	20.2
30~39才	250	18.4
40~49才	218	16.0
50~59才	114	8.4
60~69才	67	4.9
70~79才	44	3.2
80才以上	12	1.0
	1,359人	100.0%

(記入なし21名)

エ 県内54%、京都20%、大阪10%

区分	実数	割合
滋賀県内	735	54.0
京都府下	269	20.0
大阪府下	135	9.9
その他近畿圏内	91	6.7
中国・四国	6	0.4
九州・沖縄	8	0.6
東海	63	4.6
北陸	13	1.0
関東・甲信越	33	2.4
東北・北海道	1	0
海外	6	0.4
合計	1,360人	100.0%

(記入なし20名)

### 3 新聞掲載（取材）記録

月	日	記事タイトル	新聞社名
4	1	滋賀県 琵琶湖博物館	全国観光と物産新聞社
	10	烏丸地区リゾート推進協が総会	京都新聞
	13	エジンバラ公賞 川那部琵琶湖博物館館長に	京都新聞
	13	日本学士院賞 11氏に決まる	毎日新聞
	13	学士院賞に11氏	産経新聞
	13	アユ社会の構造を研究 川那部氏	中日新聞
	14	琵琶湖の風土テーマ写真集の出版を祝う 大津	京都新聞
	23	生物界における共生と多様性 川那部浩哉著	産経新聞
	26	展示準備急ピッチ	朝日新聞
	26	10月開館待つばかり	京都新聞
	27	県立琵琶湖博物館のシンボルマーク発表	中日新聞
5	1	着々進む公開準備 10月開館	産経新聞
	1	空から拝見 烏丸半島 琵琶湖総合開発の象徴	読売新聞
	9	かわらぶき農家復元 60年代忠実に	読売新聞
	10	ひと 琵琶湖博物館の初代館長 川那部浩哉 さん	朝日新聞
	10	ポテジャコの人工受精成功	毎日新聞
	11	頭脳流動 琵琶湖博物館館長になった川那部浩哉氏	日本経済新聞
	14	生態系を国際共同研究 京大など人間との共存探る	日本経済新聞
	17	滋賀 琵琶湖博物館 水をみつめ生活に工夫	読売新聞 (夕刊)
	21	生物多様性の意義探る 5年間国際研究	京都新聞
	24	感彩人 川那部浩哉さん 種の保存。多様性が大切なんです	読売新聞 (夕刊)
6	3	古代の瀬田橋 木材を保存処理 今秋に公開	京都新聞
	10	学士院賞の授賞式	中日新聞
	12	体長1メートルの大物 オオサンショウウオ 大津の信楽川で保護	朝日新聞
	15	湖や小川に思いをはせて	京都新聞
	15	巨大オオナマズも新居でスイスイ 琵琶湖文化館から博物館へ引っ越し	中日新聞
	15	ビワコオオナマズ引っ越し	朝日新聞
	20	川那部浩哉氏琵琶湖博物館館長 湖と人の関わり追求	日本工業新聞
	21	'96 淡海エコライフフェア	毎日新聞
	23	環境保全を考えよう '96 淡海エコライフフェア	朝日新聞
	23	来月31日から10講座 草津市民教養大学の日程	朝日新聞
	27	もの知りエース 人との関係を探る 川那部 浩哉 さん	読売新聞 (夕刊)
	28	水環境の指標 ホタルと住みたい	読売新聞 (夕刊)
7	8	解決の知恵は 地球環境問題 京大がフォーラム	毎日新聞
	13	草津市立水生植物公園 入場者20万人突破	毎日新聞
	17	大津-烏丸港に航路 琵琶湖博物館に合わせ	毎日新聞
	19	湖国で今秋フォーラム 深刻な水問題国際的に討議	京都新聞
	30	水を知り、水と親しもう	朝日新聞
8	9	県立琵琶湖博物館 10月20日オープン	京都新聞
	19	現代のことば 船で訪れてほしい琵琶湖博物館 嘉田 由紀子	京都新聞
	21	滋賀で水フォーラム	朝日新聞
	21	11月に国際水フォーラム	読売新聞

月	日	記事タイトル	新聞社名
8	24	琵琶湖保全など淡水資源を考える	中日新聞
	26	県立琵琶湖博物館 10月20日に開館	毎日新聞
	28	琵琶湖博物館 サメ39匹搬入 職員らそろりそろり	読売新聞
	28	チョウザメ類入りました	朝日新聞
	28	歓迎 チョウザメ39匹	京都新聞
	28	水産試からチョウザメ引越し	中日新聞
	29	いずみ	読売新聞
	29	「40万年前に絶滅」魚の歯 縄文の貝塚から発見	毎日新聞
	29	「40万年前絶滅」魚類の歯 縄文中期貝塚で発見	京都新聞
	31	いまでも中国で生息 なぜ日本では幻の魚に	中日新聞
	9	5	写真で描く琵琶湖物語
8		50万年の歴史を展示	デーリー東北(八戸)
11		県立琵琶湖博物館開館記念 シンポ参加者募る 来月19日	京都新聞
15		ぶらっと日本 浄化願う水辺の博物館	朝日新聞(東京)
16		京都で写真展開幕 琵琶湖・水物語	毎日新聞
16		湖国随想 蒸し風呂 嘉田由紀子	中日新聞
17		50万年の歴史を展示	神奈川新聞(横浜)
18		来月、琵琶湖博物館が開館	北日本新聞(富山夕刊)
18		琵琶湖博物館10月20日開館	南海日日新聞(名瀬)
19		500万年の歴史を展示	鹿児島新報
19		500万年の歴史を展示	長野日報
20		琵琶湖博物館開館 あと1カ月 上	中日新聞
20		琵琶湖博物館が10月20日オープン	北羽新報(能代)
21		琵琶湖博物館開館 あと1カ月 中	中日新聞
21		琵琶湖博物館が来月20日オープン	茨城新聞
21		前野隆資写真コレクション「琵琶湖・水物語」	日本経済新聞(夕刊)
22		琵琶湖博物館開館 あと1カ月 下	中日新聞
23		足元の自然を見つめ直そう	朝日新聞
25		里山環境考えよう 来月にシンポ開催	中日新聞
25		湖のほとりで思う 人と自然との関係	日本経済新聞(夕刊)
26		琵琶湖博物館 来月20日オープン	中國新聞
27		烏丸半島の新開発構想 県が突き返す	中日新聞
27		烏丸半島に老人福祉施設計画を提示 県企業に見直し指示	毎日新聞
29	誕生 琵琶湖博物館 10月20日オープン	各紙	
10	1	歴史系博物館も視野に 琵琶湖文化館の将来	中日新聞
	4	みずからの発見 そこらへんの魚	京都新聞
	5	18、19日秋篠宮ご夫妻来県 琵琶湖博物館開館行事で	読売新聞
	5	秋篠宮ご夫妻来県 初の公式訪問	中日新聞
	5	湖と人間共存テーマ、開設	十勝毎日新聞(帯広)
	5	湖と人間との共存テーマに	神戸新聞
	6	県立の琵琶湖博物館 報道陣に公開	毎日新聞
	6	湖と人間との共存テーマに	鹿児島新報
	6	琵琶湖博物館がオープン	南海日日新聞(名瀬)
	7	みずからの発見 湖の恵み	京都新聞
	7	湖と人間との共存テーマに	苫小牧民報

月	日	記事タイトル	新聞社名
10	7	湖と人間の共存	釧路新聞
	7	淡水魚数は国内最大	陸奥新報
	7	人と湖語る 琵琶湖博物館20日オープン	日本農業新聞
	9	みずからの発見 水は宝もの	京都新聞
	10	観光資源もっと生かせ 草津でフォーラム	京都新聞
	10	みずからの発見 ザリガニになろう	京都新聞
	11	みずからの発見 主役は住民	京都新聞
	11	環境に配慮した設計 琵琶湖博物館を見学	建設通信新聞
	14	20日開館 琵琶湖博物館	毎日新聞
	16	消えゆく自然をうつす 今森光彦さんが写真展	朝日新聞
	16	来館者参加型が特徴 琵琶湖博物館、20日開館	朝日新聞
	17	淡水魚と遊ぼう	産経新聞
	17	500万年の歴史展示	岩手日日新聞 (一関)
	18	琵琶湖博物館20日オープン	日刊工業新聞
	18	みなと	読売新聞 (夕刊)
	19	秋篠宮ご夫妻 興味深く見学	読売新聞
	19	琵琶湖博物館へようこそ 秋篠宮さま夫妻	中日新聞
	19	琵琶湖博物館あすオープン	中日新聞 (名古屋)
	19	琵琶湖博物館あすオープン 秋篠宮ご夫妻招き式典	中日新聞 (浜松)
	19	琵琶湖博物館開館へ	朝日新聞 (名古屋)
	19	琵琶湖博物館あすオープン	報知新聞 (大阪)
	19	「湖と人」をテーマに展示	朝日小学生新聞
	19	琵琶湖博物館 公開待つばかり	京都新聞
	19	琵琶湖博物館で開館記念式典 秋篠宮殿下夫妻も出席	毎日新聞
	19	目玉は国内最大淡水魚博物館	東奥日報 (青森)
	19	琵琶湖博物館あすオープン	福島民友
	19	琵琶湖博物館あす開館 国内最大の淡水魚水族館	西日本新聞 (福岡)
	19	日本一の淡水魚	佐賀新聞
	19	琵琶湖博物館があす開館	南日本新聞 (鹿児島)
	19	湖テーマに多彩な展示 琵琶湖博物館 20日開館	観光経済新聞 (東京)
	19	湖と人間テーマ あす開館	中国新聞 (広島)
	19	日本一の淡水魚館	佐賀新聞
	19	琵琶湖博物館 あすオープン 目玉は魚と化石	神戸新聞
	19	琵琶湖博物館あす開館	徳島新聞
	19	琵琶湖博物館 あすオープン	熊本日日新聞
	19	通風筒	北陸中日新聞
	19	国内最大規模の淡水魚水族館 あすオープン	岐阜新聞
	19	琵琶湖博物館があすから開館	伊勢新聞
	19	琵琶湖博物館あす開館	中日スポーツ
	19	琵琶湖博物館あすオープン	信濃毎日新聞 (長野)
19	淡水魚の殿堂完成 琵琶湖博物館あす開館	京都新聞	
20	自然と文化 秋篠宮さまも討論 活発に記念シンポ	中日新聞	
20	「魚と人」活発に論議 秋篠宮さまも研究発表	京都新聞	
20	「琵琶湖と魚と人間」 秋篠宮夫妻招きシンポ	毎日新聞	
20	縄文の丸木舟 琵琶湖博物館で展示	毎日新聞	

月	日	記事タイトル	新聞社名	
10	20	琵琶湖博物館きょうオープン	読売新聞	
	20	ナマズテーマに講演 シンポで秋篠宮さま	読売新聞	
	20	「魚と人」活発論議 秋篠宮さまも研究発表	京都新聞	
	20	青信号	奈良新聞	
	20	Museum hopes to put people in touch with Biwa's history	THE JAPAN TIMES	
	21	琵琶湖博物館にぎやかにオープン	京都新聞	
	21	好調な滑り出し 1万1000人が入館 シャトルボートも就航	中日新聞	
	21	家族連れでにぎわう 一般公開スタート	毎日新聞	
	21	県内外からどっと 琵琶湖博物館公開	読売新聞	
	21	琵琶湖博物館が開館	沖縄タイムス	
	23	琵琶湖博物館オープン	中日スポーツ	
	23	琵琶湖博物館オープン	大阪日日新聞	
	24	生物に触れ琵琶湖を学ぶ	朝日新聞 (大阪夕刊)	
	24	淡水水族展示や環境情報を発信	サンケイスポーツ (大阪)	
	24	最大規模の淡水魚博物館	大阪日日新聞	
	24	社説 一度見てほしい琵琶湖博物館	京都新聞	
	25	湖と人間がテーマ 滋賀県立琵琶湖博物館がオープン	流通サービス新聞	
	26	琵琶湖の歴史一堂に	デイリースポーツ	
	26	化石から知る地球の歴史	読売新聞	
	27	250万年前の森を再現	大阪新聞	
	28	国内最大級の淡水魚水族館	山陽新聞 (岡山)	
	28	琵琶湖博物館がオープン	産経新聞 (東京・大阪)	
	28	琵琶湖博物館オープン	中日新聞 (滋賀・福井)	
	30	凡語	京都新聞	
	30	琵琶湖博物館発信機能学ぶ 京都新聞マルチ懇	京都新聞	
	31	守山・下之郷遺跡の動植物調査結果	京都新聞	
	11	1	生き物の家が消える Life 自然流	読売新聞
		1	五感で楽しむ博物館	朝日新聞 (夕刊)
		1	臨県情報 滋賀	岐阜新聞
		4	余禄	毎日新聞
		4	琵琶湖博物館 1メートルのナマズが眼前を遊泳 湖畔散策もまた楽し	スポーツニッポン
4		支局長からの手紙 懐かしい写真	毎日新聞	
4		守山で考古学学習会 2100万年前のドングリだ	京都新聞	
5		びわ湖シャトルボート就航	中日スポーツ	
5		人・話・題 琵琶湖博物館館長 川那部浩哉氏	日本経済新聞 (夕刊)	
5		余禄 Ancient lakes in crisis	MAINICHI DAILY NEWS	
6		守山で下之郷遺跡の特別展	朝日新聞	
6		県立琵琶湖博物館の館長 川那部浩哉さん	中日新聞	
7		滋賀県立琵琶湖博物館	中日新聞 (名古屋)	
7		窓 読者の欄 見てきました琵琶湖博物館	京都新聞	
7	滋賀県立琵琶湖博物館	北陸中日新聞		
8	ワンデー／ドライブ 琵琶湖博物館へ	奈良新聞		
9	琵琶湖博物館長に就任 川那部 浩哉さん	産経新聞		
10	情報センター化する博物館 百科専科	日本経済新聞 (東京)		

月	日	記事タイトル	新聞社名
11	12	日本学士院エジンバラ公賞受賞者特別講演会	北陸中日新聞
	12	さわって感じる博物館がブーム	朝日新聞(東京・夕刊)
	12	博物館「体感型」が続々	朝日新聞(名古屋・夕刊)
	13	Lake Biwa Museum open	MAINICHI DAILY NEWS
	13	滋賀県立琵琶湖博物館	報知新聞(東京)
	14	琵琶湖博物館見学会「博物館の舞台裏」	読売新聞
	15	12万人を突破 琵琶湖博物館の入館者	朝日新聞
	15	早くも12万人超す 開館20日間	毎日新聞
	15	琵琶湖博物館館長に就任した 川那部 浩哉氏	日刊工業新聞
	15	入場者早くも13万人 当初見込みの2倍	読売新聞
	15	開館から20日間で入場者12万5409人	中日新聞
	15	琵琶湖博物館で“ザリガニ”体験	スポーツニッポン
	16	点描 お魚ハサミ打ち	日本経済新聞(夕刊)
	19	滋賀の琵琶湖博物館入場券をペア10組に	日刊スポーツ
	20	信頼の上に築きたい博物館 嘉田 由紀子	京都新聞
	21	入館者15万人を突破 オープン1ヵ月	京都新聞
	21	今森光彦写真展 里山 生命の小宇宙	新美術新聞
	21	自然へ人間 力貸せ 川那部氏が講演	中日新聞
	21	美術館・博物館	朝日新聞(名古屋・夕刊)
	22	トンネル水槽で新発見 滋賀県立琵琶湖博物館	産経新聞(夕刊)
	24	琵琶湖博物館	中日スポーツ
	25	支局長からの手紙 220億円の値打ち	毎日新聞
	25	琵琶湖から発信する 嘉田 由紀子さん	毎日新聞
	25	支局長からの手紙	毎日新聞
	25	21世紀の水資源を議論	北日本新聞(富山)
	26	世界淡水条約制定を勧告へ	朝日新聞
	26	水利用多角的に討議 国際滋賀水フォーラム	京都新聞
	26	国際水フォーラム滋賀で開催	日刊建設工業新聞
	27	淡水が危機的状況 国際滋賀水フォーラム	京都新聞
	27	世界淡水条約実現を 国際滋賀水フォーラム	毎日新聞
27	「水資源」限界状況に	京都新聞	
27	えっ琵琶湖にボラがいた	京都新聞	
28	国際滋賀水フォーラム閉幕地球規模の水危機など確認	毎日新聞	
28	国際滋賀水フォーラム閉幕 人口増加にどう対応	朝日新聞	
28	滋賀水フォーラム閉幕	読売新聞	
28	国際水フォーラム閉幕	中日新聞	
28	都市部の水問題など討議	京都新聞	
28	しじみ講演会	中日新聞	
29	淡水条約結論出ず議論継続確認	毎日新聞	
30	プレゼント	毎日新聞(夕刊)	
30	みなと	読売新聞	
30	Museum tells history of Lake Biwa	Daily Yomiuri	
12	1	記者ノート 「先行き暗い」湖岸道路	京都新聞
	3	窓 読者の欄 魅せられた琵琶湖博物館	京都新聞
	3	琵琶湖の生活写真で語る 嘉田由紀子	日本経済新聞(東京・大阪)

月	日	記事タイトル	新聞社名	
12	4	琵琶湖博物館の飼育係	朝日新聞	
	5	入館者20万人を突破 予想上回る人気	京都新聞	
	6	滋賀・琵琶湖博物館	岐阜新聞	
	6	よし笛 人のくらしと食文化マップ	京都新聞	
	8	考古学者気分で体験学習を	大阪新聞	
	9	The Lake Biwa Museum	MAINICHI DAILY NEWS	
	9	支局長からの手紙 寒い時のお楽しみ	毎日新聞	
	11	琵琶湖博物館の観覧券を10組に	夕刊フジ	
	12	フィールドは琵琶湖 川那部浩哉さん	毎日新聞	
	18	ニュースの周辺 記者が振り返る 湖と共存を探る	読売新聞	
	19	お出掛けは 琵琶湖博物館	朝日新聞 (夕刊)	
	20	湖国'96 烏丸半島開発 見直し必要な開発	朝日新聞	
	23	1996年 琵琶湖博物館オープン	京都新聞	
	24	地域の集客施設転機 情報・先端科学に的	日本経済新聞	
	24	琵琶湖博物館 目玉は日本最大 淡水水族展示室	中日スポーツ	
	26	触れて実感 琵琶湖の姿 滋賀県立琵琶湖博物館	産経新聞 (夕刊)	
	26	博物館オープン	毎日新聞 (夕刊・東京)	
	26	琵琶湖博物館好評です57日間で入場者26万人突破	京都新聞	
	30	入場者26万人超す 開館2カ月快ペース	中日新聞	
	30	ネズミ色はモー結構	朝日新聞	
	31	琵琶湖博物館が開館 今年の5大ニュース	中日新聞	
	31	近江発景 水	毎日新聞	
	1	1	文化的パワー秘めた関西	産経新聞 (大阪)
		1	今自然史博物館が面白い	長野日報
		1	感動博物館 琵琶湖に誕生	中部経済新聞
		1	1997年 わたしのキーワード	京都新聞
		3	博物館へ行こう 琵琶湖博物館	福島民報
		3	自然史博物館が面白い 全国で続々開館	岡山日日新聞
		4	中部ニユースクロス	中日新聞 (浜松)
		5	いま「自然史博物館」が面白い	荘内日報 (鶴岡)
		6	入場者26万人を超す	中日新聞
6		ブラックバス増え生態系心配 前畑 政善さん	中日新聞	
7		自然史博物館が面白い	陸奥新報	
9		琵琶湖の環境再生 川那部浩哉さん	中日新聞	
9		琵琶湖博物館 人気 入場者26万人を突破	日経流通新聞	
11		とれんど '97 「循環元年」になれるか	読売新聞	
11		今自然史博物館が面白い	東愛知新聞	
13		Lake Biwa's history on display	MAINICHI DAILY NEWS	
16		学芸員の解説で水鳥観察楽しむ	京都新聞	
17		30年前にタイムスリップ 滋賀県立琵琶湖博物館	全国農業新聞	
19		里山フォーラム 草津・琵琶湖博物館	京都新聞	
20		大阪建築士事務所協会	日刊建設産業新聞	
20		自然史博物館 特色館が続々と	上毛新聞 (前橋)	
22		アフリカの「古代湖」・マラウイ湖 嘉田由紀子	京都新聞 (夕刊)	
22	生態学琵琶湖賞2人に 県立琵琶湖博物館 中島さん	朝日新聞		

月	日	記事タイトル	新聞社名	
1	22	中島学芸員ら2人に	毎日新聞	
	22	コイ科魚類の変遷解明 中島氏	中日新聞	
	22	生態学琵琶湖賞決まる 中島、ティモージェキンさん	読売新聞	
	22	第6回生態学琵琶湖賞 コイの系統分析 中島氏 プラナリア研究 テイ氏	京都新聞	
	22	2研究者に琵琶湖賞	山梨日日新聞	
	22	琵琶湖賞に内外の2氏	南日本新聞（鹿児島）	
	22	中島氏らが受賞	中部経済新聞	
	23	古代湖の自然と文化に光 研究者一堂 恵み見直す	京都新聞（夕刊）	
	23	学芸員に外国人採用 全国初 研究の国際化期待	読売新聞	
	23	3外国人の採用内定 全国初の公募で	中日新聞	
	23	国際化へ外国人学芸員3人	京都新聞	
	23	初の外国人採用 主任学芸員3人	毎日新聞	
	23	琵琶湖博物館が外国人採用	日本経済新聞	
	23	愛大・ロシター助教授ら 博物館学芸員に	愛媛新聞	
	23	公募で外国人の学芸員	山梨日日新聞	
	23	国際化へ外国人学芸員3人	四国新聞	
	23	学芸員に3外国人採用	南日本新聞	
	23	国際化へ外国人学芸員	岐阜新聞	
	23	国際化へ外国人学芸員3人	高知新聞	
	23	国際化へ外国人学芸員	熊本日日新聞	
	23	国際化へ外国人学芸員	徳島新聞	
	23	国際化めざし公募 外国人学芸員	山口新聞	
	23	窓 読者の欄 琵琶湖博物館新感覚を楽しむ	京都新聞	
	24	学芸員に外国人採用 都道府県レベルの博物館では全国初	朝日新聞	
	24	最近事情 いま博物館が面白い	シティリビング（熊本）	
	26	国際フォーラムを振り返る “水は安い”の考え捨てよう	中日新聞	
	27	湖国随想 博物館のイメージ 布谷 知夫	中日新聞	
	28	理念なきハコモノ行政	読売新聞	
	31	微生物の大宇宙	読売新聞（夕刊）	
	2	2	国際フォーラムを振り返る 淡水問題なぜ語られぬ？	中日新聞
		2	発見体験 国内最大の淡水魚水族棟	毎日新聞
3		琵琶湖は人生の一部 フレネットさん	朝日新聞	
5		国際化へ外国人学芸員が3人 公募で琵琶湖博物館に	沖縄タイムス	
6		100万人の集客スポット誕生 烏丸半島1	毎日新聞	
6		来館者配慮に知恵絞る	中日新聞	
7		よし笛 蘇った丸子船と橋本鉄男先生	京都新聞	
7		第6回生態学琵琶湖賞を受賞した中島経夫さん	中日新聞	
7		湖国のプランクトン リサイクル食物網	読売新聞（夕刊）	
11		自然を大切にしよう草津 環境をテーマに交流	中日新聞	
13		新たなビジネスチャンス到来	毎日新聞	
13		ツアー 琵琶湖博物館と野洲町の寺	朝日新聞	
15		琵琶湖にモクズガニ	中日新聞	
16		琵琶湖と共に ⑧	京都新聞	
16		“ライバル”魚 大漁の異変「イサザ増えれば 稚アユ減る」はずが	読売新聞	



月	日	記事タイトル	新聞社名
2	17	コイで琵琶湖の歴史解明	朝日新聞
	17	いずみ	読売新聞
	18	琵琶湖にいないはず モクズガニを捕獲	朝日新聞
	18	展望台 環境問題、行政、企業、消費者の協力を	中日新聞
	20	魅力ある観光地づくりに向けて 烏丸半島3	毎日新聞
	20	「地球環境を考える」 淡海生涯カレッジ講演	中日新聞
	22	博覧館の役割 探るシンポ 来月、琵琶湖博物館で	京都新聞
	23	虚業法人始末 水資源開発公団	産経新聞(大阪・東京)
	24	琵琶湖では珍しい モクズガニ	毎日新聞
	26	探検隊は見た! 展示の舞台裏	読売新聞
	26	外国人学芸員を採用 公立初 国際化目指す	東奥日報(青森・夕刊)
	27	滋賀「淡海文化」創造をめざす	日本経済新聞(夕刊)
	27	全国的知名度アップへ 烏丸半島4	毎日新聞
	27	時空を超え丸木舟並走 縄文時代の復元舟	読売新聞(夕刊)
3	4	博物館の役割考えるシンポ 8日琵琶湖博物館で	読売新聞
	5	現代のことば 博物館の「自分化」嘉田 由紀子	京都新聞
	6	春をさがしてみか 調査協力者を募集	朝日新聞
	6	県立琵琶湖博物館企画展「博物館ができるまで」	朝日新聞
	8	シャトル船で訪ねる観光地	読売新聞
	9	博物館の環境変化討議 琵琶湖博物館でシンポ	京都新聞
	11	ブラジルの淡水魚紹介 琵琶湖博物館できょうから	朝日新聞
	11	ブラジルの淡水魚 湖国にお目見え	中日新聞
	11	アマゾン川生息の珍しい淡水魚も 水族企画展	京都新聞
	12	琵琶湖博物館 淡水魚たちがお出迎え	日本農業新聞
	13	琵琶湖博物館は最高 米の研究者フォーク氏	京都新聞
	14	湖国の環境どう守る 県が20、23日フォーラム	京都新聞
	15	春をさがしませんか 市民の参加呼びかける	京都新聞
	15	地域エゴに徹し環境考えさす展示	朝日新聞
	17	県立自然系博物館 構想利用者の立場で	静岡新聞
	21	自然と人間の共生を 草津で中高年らセミナー	京都新聞
	21	環境を考える県民フォーラム	毎日新聞
	23	異端先端 ミュージアム新事情 烏丸半島2	日本経済新聞(夕刊)
	23	ヨシの手すき和紙販売 琵琶湖博物館で、先月から	毎日新聞

#### 4 雑誌関係記事掲載（取材）記録

掲載月日	記事テーマ	掲載雑誌名等
4	琵琶湖博物館ニュース	Duet 4・5 Vol.47
5	川那部 浩哉	京大広報 NO.502
6	琵琶湖博物館ニュース	Duet 6・7 Vol.48
7	草津	電車で行く関西日帰り行楽12カ月 山と溪谷社
7	琵琶湖博物館	湖国 '96 夏・秋
8	琵琶湖博物館10月開館予定	週間釣サンデー（第21巻29号）
8	まもなく待望のオープン 日本一の淡水水族展示を備えた 世界最大の湖沼博物館	アーバンネットワーク（No.85）
8	琵琶湖博物館ニュース	Duet 8・9 Vol.49
8	第143回 川那部浩哉氏（琵琶湖博物館長）	リアルティタイム NO.176
8	琵琶湖をめぐる人々の文化と歴史を知る	MY SUNROUTE
9	琵琶湖博物館ニュース	ニュー滋賀
9	各地にさまざまなテーマの博物館が誕生	j o - h o 秋号
9	滋賀県立琵琶湖博物館	関西のミュージアム 関西あらか ると Vol.2
9	特別レポート「母なる湖・琵琶湖をどうする」	時評
9	The Lake Biwa Museum	KANSAI NEWS AND VIEWS 15
9	湖と人間「琵琶湖博物館」10月20日 オープン	How Are You VOI.44
9	「湖と人間」の共存を目指して	文部時報 NO.1438
9	草津駅周辺 滋賀県立琵琶湖博物館	秋の近郊行楽マップ ②
9	エリア開発情報 琵琶湖博物館が今年秋開業	月刊 開発と計画 NO.13
9	湖と人の歴史を考える	めいかん 132号
9	琵琶湖探訪	MY SUNROUTE
10	誕生！感動博物館	ニュー滋賀 10月号
10	県立琵琶湖博物館	カード・プレス秋季号 Vol.38
10	三都物語 滋賀県立博物館オープン	JR西日本 沿線だより
10	学ぶ、交わる、考える 感動の博物館オープン 滋賀県	新近畿 NO.75
10	日本最大の湖	滋賀県観光物産東京情報センター
10	琵琶湖	関西ウォーカー NO.21
10	県立琵琶湖博物館が面白い！	living 第683号 滋賀
10	滋賀県立琵琶湖博物館がオープン	びあ関西 No.346
10	わが街くさつ 館長 川那部浩哉	ASA モーニングくさつ Vol.17
10	琵琶湖博物館のプロローグ 連載対談 滋賀県立琵琶湖博 物館専門学芸員 嘉田由紀子さんと	月刊ミュゼ 1996.10 '96・9
10	湖と人の歴史を探る 滋賀県立琵琶湖博物館	オール関西 第13巻6号259
10	琵琶湖博物館開館記念企画展	関西イベントファイル 1996
10	滋賀県立琵琶湖博物館今秋オープン	うおっちゃんぐ1996 No.2
10	琵琶湖博物館10月20日オープン	さらさ '96 秋
10	自然 近江のかわ	淡海のかわ
10	琵琶湖博物館で知的に遊ぼう	関西 サンテレビジョン Vol.44
10	琵琶湖をまるごと体感	CHEEK NO.137

掲載月日	記事テーマ	掲載雑誌名等
10	滋賀県立琵琶湖博物館	ちよっとひと駅 草津～余呉 (JRリーフレット)
10	新しい淡海文化の創造拠点	Cultivate '96 NO.4
10	滋賀県立琵琶湖博物館	湖国と文化 秋 77号
10	琵琶湖博物館	たかとき川いま昔 '96 秋 Vol.3
11	2 琵琶湖のシャトルボートは活用大	滋賀リビング
11	9 滋賀県立琵琶湖博物館	シティリビング (北大阪等)
11	10 琵琶湖博物館オープン	Lure News
11	11 「琵琶湖博物館」での発見!	おりづる 第42号
11	18 こんなに楽しい博物館へもう行きました?	ASAHI TV ウォーク滋賀
11	19 滋賀の琵琶湖博物館入場券をペア10組に	日刊スポーツ
11	19 県立琵琶湖博物館オープン	教育しが 11月号 NO128
11	20 里山 生命の小宇宙	週間読売 P109
11	24 琵琶湖のさかなと環境 (1)	日赤お、つ
11	30 膝栗毛 1996年11 第56号 (表紙写真)	東海キヨスク
11	琵琶湖博物館 オープン	I S D A Vol 13 No.8
11	～ 琵琶湖博物館の情報システムの整備	
11	水と湖にこだわって開館する『琵琶湖博物館』	BE-PAL 1996.11
11	県立琵琶湖博物館	お茶にしましょ '96 . 秋
11	湖を通して学び感じる自然と人との共存関係	Kinden REPORT '96
11	交流と体験の世界	京都TODAY '96.11 VOL.50
11	琵琶湖を通じて人と湖の関係を考えよう	旅の手帖 第20巻11号 295
11	滋賀県立琵琶湖博物館	開発と計画 NO.15
11	琵琶湖博物館オープン	がり火 NO.55
11	琵琶湖博物館オープン	B A R D 第18号 1996秋
11	琵琶湖にもっと近づこう	月刊オール関西
12	15 琵琶湖からの贈り物 今森光彦の自然手帳	関西遊ばマガジン NO.17
12	18 220億円を投じた琵琶湖博物館が開館	レジャー産業
12	19 滋賀県立琵琶湖博物館	関西B-ing NO.49
12	びわ湖横断航路	雄琴温泉旅館組合
12	琵琶湖博物館オープン	旅 1996.12 NO.839
12	おもしろ博物館	ぶらざ Vol.64
12	家族で楽しめるテーマ博物館	夢けんせつ 増刊号冬Vol.413
12	感動博物館誕生!	アクティブライフ (12)
12	誕生! 琵琶湖博物館	「みずとともに」 NO.396
12	湖と人間	m c m 12月号 (NO.570)
12	びわ湖の足あとの、ここが入り口	2WAY倶楽部 '96.12
12	歴史に触れ、学び、考える	水栓ジャーナル NO.354
12	びわ湖と人の歴史を探る	なわて '96.12 NO.256
12	観察会「烏丸半島の水鳥」	Duet Vol.51
12	散歩道「湖と人間」	m c m '96.12
12	滋賀県立琵琶湖博物館 開館記念特別展	楽 第1巻第6号 '96.12
12	琵琶湖エコロジーコース	Shiga School Excursion
12	滋賀県立琵琶湖博物館行事案内	BIRDER Vol.10 No.12
12	湖人	学鑑12 Vol.93 No.12

掲載月日	記事テーマ	掲載雑誌名等
12	滋賀「里山フォーラム」	自然保護 No.412
12	ビワコオオナマズが待ってます	ふたばライフ Vol.66
12	琵琶湖博物館オープン	京阪ニュース
12	琵琶湖博物館	C E L 3 9 '96.12
12	滋賀県立琵琶湖博物館	アクアウェルネス NO.14
1 5	新スポット続々誕生の大津駅最新事情	Hanako WEST
1 13	滋賀県立琵琶湖博物館	日経アーキテクチュア
1 19	滋賀県立琵琶湖博物館	ウイングスニュースNo.198
1 20	滋賀県立琵琶湖博物館	国立科学博物館ニュース 第334号
1 24	最近事情 いま博物館が面白い	シティリビング 熊本
1 31	滋賀県立琵琶湖博物館	関西電力 シティリビング
1	琵琶湖から世界へ	湖国 Vol.60 '97 春・秋
1	琵琶湖博物館オープン	職員だより滋賀 第87号
1	滋賀県立琵琶湖博物館	生活情報360(北版) Vol.26
1	一泊移動ゼミナール	ちもんけん Vol.18.1 113
1	滋賀県立琵琶湖博物館に記念植樹をしました。	H2O No16
1	学ぶ、交わる、考えるー感動の博物館オープン	R O U N D近畿 Vol.28
1	博物館探険「歴史展示の舞台裏」	Duet 1・2 Vol.52
1	滋賀県立琵琶湖博物館オープン	美術の窓 '97.1第16巻第1号163
1	博物館めぐり「滋賀県立琵琶湖博物館」	啓林 Vol.11 1997 冬
1	ステンレス押し型材による超大型ガラスファサード	ディテール '97 No.131
1	滋賀県立琵琶湖博物館図書室	T R C ほんわかだより No.116
1	滋賀県立琵琶湖博物館	RISHO NEWS '97.1 NO.114
1	滋賀県立琵琶湖博物館	COMMUNICATIONS Vol.4
1	琵琶湖博物館	びわこブック '97
1	触れたり体験したり、楽しい発見がいっぱい	ハートLight しが 冬 Vol.24
1	びわこ博物館	あかつみ VOL. 83
1	琵琶湖博物館開館記念特別展	Quark NO.175
1	日本最大規模の淡水水族館を備えた滋賀県立琵琶湖博物館 オープン	山と溪谷 '97.1
1	滋賀県立琵琶湖博物館	ケイコとマナブ Vol.46
1	滋賀県立琵琶湖博物館	kansai walker
1	ミュージアム文化研究部会	JMMA会報 NO.4 (Vol.1 no.4)
1	SPOT 子どもが大喜び!	CALAKO mama '97.1
1	湖と人の歴史を体感する	New ton '97.1
1	開館 滋賀県立琵琶湖博物館	地球冒険 '97冬 Vol.15
1	ディスカバー きんき	すかいらぶ Vol.8 NO.1
1	琵琶湖博物館	マンスリーガイド 京都 滋賀 '97.1月
1	琵琶湖博物館	蘇る! 1月号 1997
1	近代化の良い点、悪い点……嘉田 由紀子	C R Cコミュニケーション (NO.347)
1	こんな場所が好き	ぱたぱた Vol.28読売ICミニコミ誌
1	湖 INTERVIEW	湖 1997 冬 NO.120
1	琵琶湖博物館日帰り	こどもびあ関西(春夏保存版)'97

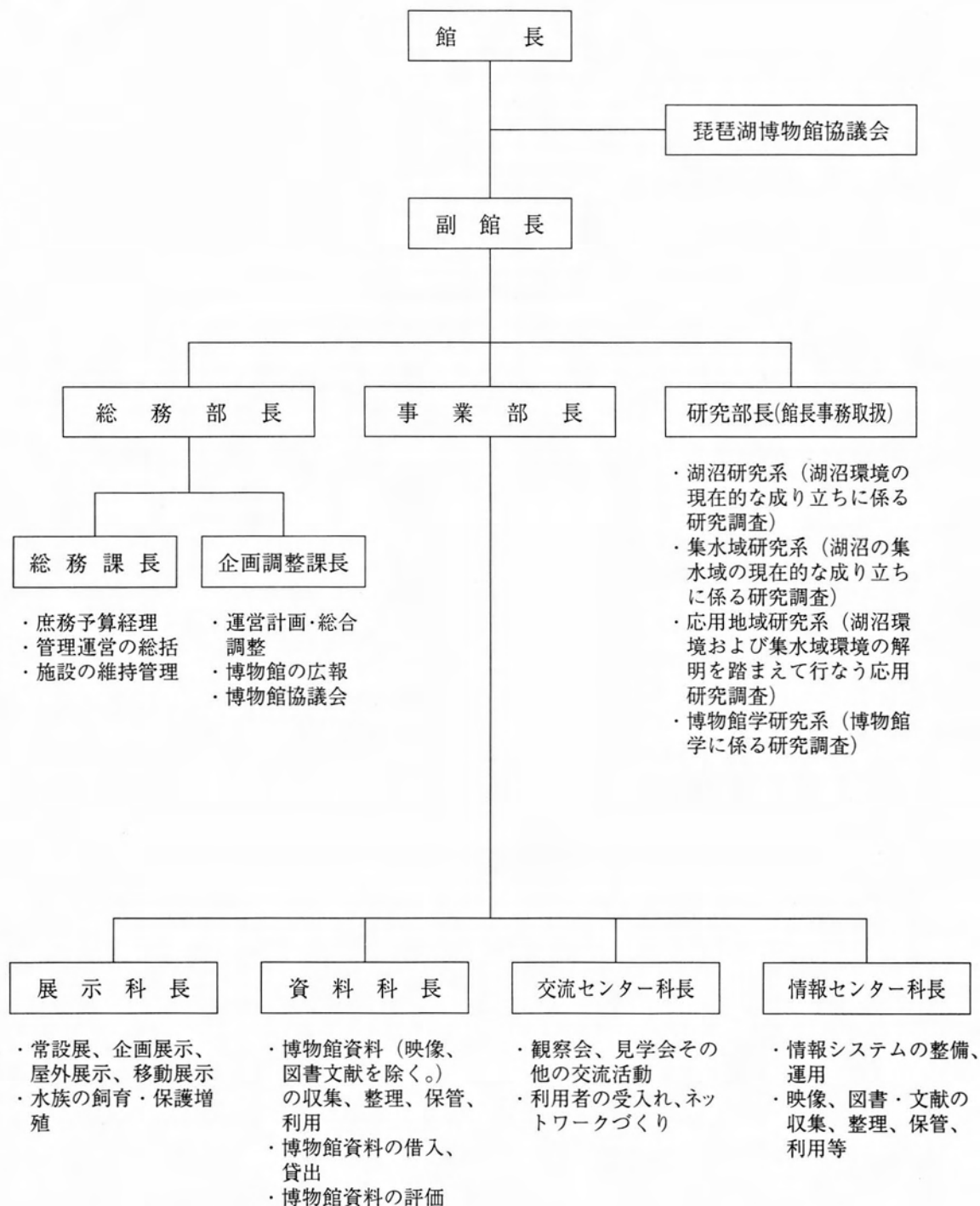
掲載月日	記事テーマ	掲載雑誌名等
2	1 琵琶湖博物館 (写真)	おで情 おでかけ情報西日本版 Vol.34
2	5 歴史的な生命体、琵琶湖へのいざない	みんなく
2	8 寒い時のレジャーガイド	滋賀 (京都) リビング
2	11 琵琶湖をまるごと知っちゃおう	世界通信教材科学ニュース
2	12 親子で楽しく環境学習しよう	読売ファミリー (北版)
2	19 琵琶湖の長い歴史を肌で感じてみよう	東海ウォーカー '97.NO.5
2	骨の化石の見分け方を知る	ケイコとマナブ
2	琵琶湖からのメッセージ	「日立」1997年2月 SONTENTS
2	湖と人間とのかかわりを考える	あなたの街のでんきやさん(松下) '97.2
2	滋賀県立琵琶湖博物館	関経連 '97.2 NO.394
2	滋賀県 滋賀県立琵琶湖博物館	全国水族館ガイド
2	寒い冬のお出かけは NEW 屋内施設に決定	CALACO mama
2	日本一の淡水水族展示を備えた新しいタイプの湖沼博物館	関西おもしろ博物館.山と溪谷社
2	琵琶湖のすべてがわかる 滋賀県立琵琶湖博物館	家の光 (近畿版) Vol.73-2
2	滋賀県立琵琶湖博物館のご紹介	保安だより
2	琵琶湖博物館	サンキュー NO.10
2	琵琶湖400万年の歴史を「観る」	Utan
3	1 滋賀県 琵琶湖博物館オープン	Car & レジャー (東京)
3	4 滋賀県立琵琶湖博物館	カンサイウォーカー
3	25 湖東のドライブウエイ	CHANCE NO.113
3	ここはアミューズメントパークなのだ	ASAHI TVウォーク滋賀
3	今、一番もててる博物館	よかネット NO.26
3	特集インタビュー	TECHNICAL EYE V01.8
3	琵琶湖は展示可能か?	民博通信 '97.3 NO.76
3	本日ハ旅人ナリ 「第3回大津」	Meets Regional 87 '97.3
3	青年懇話会 自主研修会開催 滋賀県立琵琶湖博物館	O D A 216 (1997.3)
3	好奇心をくすぐる話題の琵琶湖博物館	Excel Club '97.3
3	オープン間もない博物館は、この夏の注目No.1スポット間違いなし。	滋賀シーズン・ガイド '97.3~'98.2
3	プレイスポット滋賀県立琵琶湖博物館	びあ ワンディ トリップ (関西版)
3	滋賀県立琵琶湖博物館	みらい '97 春
3	滋賀県立琵琶湖博物館	滋賀考古 '97.3
3	琵琶湖博物館	CLIO City Net Vol.3
3	「琵琶湖博物館」で知的に遊ぼう	関西 ザテレビジョン Vol.44
3	水族館 知られざる琵琶湖の魚たちを見に	びあ ワンダータウン '97~'98
3	たまにはカルチャーしよう!	懸賞フレンド

## 5 テレビ放映・ラジオ放送（取材）記録

月	日	タイトル	テレビ会社名等
4	1	外国プレスツアー	関西情報発信機能強化推進協議会
5	5 5 10 28	テレビ博物館 所さんの目がテン ニュースジャパン クローズアップ現代	東海テレビ 日本テレビ フジテレビ NHKテレビ
6	17 20 27	きんき845 イブニングネットワークきんき「滋賀ウイーク」 水とくらし	NHKテレビ NHKテレビ 朝日放送ラジオ
7	1 8 19	琵琶湖の日スペシャル 第1部～第3部 ひるどき日本列島 おはようパーソナリティ道上洋三です。	びわ湖テレビ NHKテレビ 朝日放送ラジオ
8	12 19	みんな琵琶湖の生き物仲間 ～僕らの水環境探険～ ロマン誘う大湖	びわ湖テレビ びわ湖テレビ
10	7 8 18 30	琵琶湖博物館完成に関する話題（お昼のニュース） 誕生！感動博物館（辰巳 琢郎取材） おでかけさっちゃんのコーナー ニュース ほっと5	NHKテレビ びわ湖テレビ 福井放送 テレビ大阪
11	1 4 7 7 9 15 20 24 30	ニューススクランブル おはよう朝日です「関西トレンド倶楽部」 めざましテレビ わたしたちの琵琶湖・淀川（ビデオ撮影） 噂になりたい#82 池谷幸雄 仲条春香 いくよ・くるよのはりきりフライデー ごめんやす馬場章夫です 遠くへ行きたい 風が見た風景 琵琶湖を愛し水に生きる	読売テレビ ABCテレビ 関西テレビ 近畿地建 関西テレビ KBS京都ラジオ 毎日放送ラジオ 読売テレビ O A
12	3 15 19 24	遊ぶ・触れる・感じる 琵琶湖博物館誕生 「ちょっと、ひと駅」 県政この1年（提供 滋賀県） アタック60 特集 いま、日琵琶湖の魚は 皇室アルバム	びわ湖テレビ 読売テレビ びわ湖テレビ 関西テレビ 毎日テレビ
1	4・5 6 18	ネットワーク滋賀 教育ウィークリーレポート 「おはよう朝日・土曜日です」	京都テレビ びわ湖放送 朝日テレビ
2	4	旅・TABI・生ワイド	
3	14 15 19	トクトク探検隊 大湖の魅力を探る ふるさとZIP探偵団 滋賀県だより	関西テレビ KBS滋賀ラジオ

## IV 組織および運営

### 1 組織



職員構成（平成9年3月31日現在）

区分	館長(非常勤)	行政職	研究職	教育職	小計	嘱託等	合計
人数(名)	1	12	27	1	41	14	55

## 2 職 員

- 館 長 川那部 浩 哉 (研究部長事務取扱)
- 副館長 田 口 宇一郎

### 総 務 部

- 部 長 高 瀬 藤一郎

#### ◇ 総務課

- 課長 (兼) 高 瀬 藤一郎
- 課長補佐 森 口 聖
- 専門員 菊 井 吉之丞
- 調査員 鷓 飼 孝 司
- 主任主事 河 村 守 道
- 同 澤 村 治 男
- 主 事 山 崎 爾 子
- (併任) (本建学課) 安孫子 三 男

#### ◇ 企画調整課

- 課長 (兼) 嘉 田 由紀子
- 調査員 森 野 泰 起
- (兼) 小笠原 俊 明
- (兼) 脇 田 健 一
- (兼) 中 井 克 樹

### 事 業 部

- 部 長 (兼) 布 谷 知 夫

#### ◇ 展示科

- 科長心得 (兼) 高 橋 啓 一
- (兼) 森 井 源 蔵
- (兼) 草 加 伸 吾
- (兼) 楠 岡 泰
- (兼) ジャン ジャック フレネット
- (兼) 山 崎 博 史
- (兼) 秋 山 廣 光
- (兼) 松 田 征 也
- (兼) 牧 野 久 実

#### ◇ 資料科

- 科長心得 (兼) 用 田 政 晴
- (兼) 内 田 臣 一
- (兼) 桑 原 雅 之
- (兼) 八 尋 克 郎
- (兼) 橋 本 道 範

#### ◇ 交流センター科

- 科長心得 (兼) 前 畑 政 善
- 主任主事 (教員) 高 橋 政 宏
- (兼) 藤 岡 康 弘
- (兼) 芦 谷 美 奈 子
- (兼) 亀 田 佳 代 子
- (兼) 中 藤 容 子

#### ◇ 情報センター科

- 科 長 (兼) 中 島 経 夫
- (兼) 戸 田 孝
- (兼) 木 田 千 代 美
- (兼) 宮 本 真 二
- (兼) 芳 賀 裕 樹



研 究 部

○ 部 長 (事務取扱) 川那部 浩 哉 (館長兼滋賀県顧問)

◇ 湖沼研究系

専門学芸員 中 島 経 夫  
 主任学芸員 楠 岡 泰  
 主任学芸員 山 崎 博 史  
 学 芸 員 松 田 征 也  
 学 芸 員 戸 田 孝  
 学 芸 員 芦 谷 美奈子  
 学 芸 員 中 藤 容 子  
 学芸技師 中 井 克 樹  
 学芸技師 牧 野 久 実  
 学芸技師 芳 賀 裕 樹  
 学芸技師 亀 田 佳代子

◇ 応用地域研究系

専 門 員 森 井 源 藏  
 主任学芸員 前 畑 政 善  
 調 査 員 藤 岡 康 弘  
 主任学芸員 用 田 政 晴  
 調 査 員 小笠原 俊 明  
 学 芸 員 桑 原 雅 之  
 学 芸 員 宮 本 真 二

◇ 集水域研究系

専門学芸員 嘉 田 由紀子  
 主任学芸員 草 加 伸 吾  
 主任学芸員 高 橋 啓 一  
 主任学芸員 内 田 臣 一  
 主任学芸員 脇 田 健 一  
 主任学芸員 ジャン ジャック フレネット  
 学 芸 員 木 田 千代美  
 学芸技師 八 尋 克 郎

◇ 博物館学研究系

総括学芸員 布 谷 知 夫  
 主任学芸員 秋 山 廣 光  
 学芸技師 橋 本 道 範  
 主任主事(教員) 高 橋 政 宏

臨時的任用職員・嘱託員等

山 本 裕美子	総務事務	北 方 常 視	地学標本整理
木 津 かおり	総務事務	矢 野 健	昆虫標本整理
小 菅 由有子	館長秘書	細 川 真理子	歴史民俗資料整理
田 中 奈緒子	同	小 関 義 正	実習補助・団体利用受付
北 中 喜美子	ディスカバリールーム運営	浜 尾 研 児	メデアラボ印刷、業務機器 保守管理
瀬 川 也寸子	同	生 津 恵 子	図書情報利用室運営、図書 資料整理
谷 崎 誠 三	展示物の制作・維持補修		
村 瀬 忠 義	植物標本整理		

○ 平成8年度 琵琶湖博物館学芸職員採用について

滋賀県教育委員会は、琵琶湖博物館学芸職員の採用に関し、国際化の進展に対処するため、外国人にも門戸を開くこととし、外国人をも含めた平成8年度滋賀県教育委員会学芸職員採用試験を実施した。

その結果、外国人3人、日本人1人が合格し、採用された。

琵琶湖博物館学芸職員採用者

専攻分野 (職名)	氏名	国籍	最終学歴等	採用年月日
陸上生態系学 (主任学芸員)	ジャン-ジャック・フレネット Jean-Jacques Frenette	カナダ	ラバル大学 (生物学博士)	平成9年2月1日
生物多様性学 (主任学芸員)	マーク・ジョセフ・グライガー Mark Joseph Grygir	アメリカ	カルフォルニア大学 (海洋生物学博士)	平成9年4月1日
国際湖沼学 (主任学芸員)	アンドリュー・ロシター Andrew Rossiter	イギリス	ノース・ウェールズ 大学(理学博士)	平成9年4月1日
鳥類生態学 (学芸技師)	かめだ かよこ 亀田佳代子	日本	京都大学大学院 (理学博士)	平成8年12月1日

### 3 予 算

#### (1) 平成8年度歳入状況

(単位：円)

科 目	調 定 額	収入済額	不能欠損額	収入未済額	備 考
使用料及び手数料	220,535,221	220,535,221	0	0	
財産売払収入	3,434,200	3,434,200	0	0	
雑 入	51,662	51,662	0	0	
合 計	224,021,083	224,021,083	0	0	

#### (2) 平成8年度歳出予算額

(単位：千円)

事 業 名	予 算 額	備 考
管理運営費	718,404	
施設維持費、烏丸半島整備、事務費、 開館記念行事、事務所移転費		
調査資料収集事業費	322,468	
研究調査、研究備品、資料収集製作、 資料整理保管、水族飼育		
展示事業費	247,378	
企画展示、常設展示、展示維持管理、 展示用印刷物		
情報交流事業費	290,851	
情報システム管理、データ入力、図 書整備交流行事開催、広報出版、フィ ルドレポーター		
合 計	1,579,101	

## 4 琵琶湖博物館協議会

### (1) 第1回滋賀県立琵琶湖博物館協議会

日時 平成8年9月25日(水) 13:00~18:00

開催場所 琵琶湖博物館会議室

出席者 委員14名、事務局

議事

- ① 正副会長選出
- ② 琵琶湖博物館の概要説明
- ③ 館内視察
- ④ 意見交換

### (2) 博物館協議会委員名簿

区分	氏名	役職等
学識者	上野勝代	京都府立大学生活科学部教授
同(県議会)	宇野治	県議会文教警察常任委員会委員長
同	岡本幸助	県脊髄損傷者協会長
同(報道機関)	斉藤一美	元NHK大津放送局長
同	鄭大聲	滋賀県立大学人間文化学部教授
同	○栃本武良	姫路市立水族館長
同(研究機関)	中村正久	琵琶湖研究所長
同	西野嘉章	東京大学総合研究博物館助教授
同	原田英司	京都大学名誉教授
同(研究機関)	◎日高敏隆	滋賀県立大学長
同(地元)	古川研二	草津市長
社会教育	徳島りつ子	日本青年会議所広報渉外委員
同	吉本由理子	県青年団体連合会副会長
学校教育	中村實	県中学理科教育部会長・草津市立草津中学校長
同	藤田三義	県小学校長会理事・草津市立草津小学校長

◎ 会長 ○ 副会長

## 5 関係条例・規則等

### (1) 滋賀県立琵琶湖博物館の設置および管理に関する条例（平成8年滋賀県条例第26号）

（設置）

第1条 琵琶湖に対する総合的な理解を深めることにより、湖の人間のよりよい共存関係を築いていくため、博物館法（昭和26年法律第285号）第18条の規定に基づき、滋賀県立琵琶湖博物館（以下「博物館」という。）を草津市下物町に設置する。

（事業）

第2条 博物館は、琵琶湖およびその集水域における自然および人々の暮らしに関し、次に掲げる事業を行う。

- (1) 研究、資料の整備および情報の提供を行うこと。
- (2) 常設展示、企画展示その他の展示を行うこと。
- (3) 観察会、見学会その他の交流事業を行うこと。
- (4) その他博物館の設置の目的を達成するために必要な事業

（観覧料）

第3条 観覧料の額および納付の方法等は、滋賀県使用料および手数料条例（昭和24年滋賀県条例第18号）の定めるところによる。

（博物館協議会）

第4条 博物館法第20条第1項の規定に基づき、博物館に滋賀県立琵琶湖博物館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

第5条 協議会は、委員15人以内で組織する。

- 2 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 委員は、再任されることができる。

第6条 協議会に会長および副会長を置き、委員の互選によって定める。

- 2 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、または会長が欠けたときは、その職務を代理する。

第7条 協議会の会議（以下「会議」という。）は、会長が招集する。

- 2 会議は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。
- 3 会長は、会議の議長となる。
- 4 会議の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（委任）

第8条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理運営に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

付 則

（施行期日）

- 1 この条例は、平成8年4月1日から施行する。（以下省略）

(2) 滋賀県使用料および手数料条例（別表28の2）

○ 琵琶湖博物館観覧料

区 分		金 額	
		常 設 展 示	企 画 展 示
個 人	小学校もしくは中学校の児童もしくは生徒またはこれらに準ずる者	1人1回につき 250円	知事とその都度別に定める額
	高等学校もしくは大学の生徒もしくは学生またはこれらに準ずる者	同 400円	
	その他の者	同 500円	
団 体 (20人以上)	小学校もしくは中学校の児童もしくは生徒またはこれらに準ずる者	同 200円	
	高等学校もしくは大学の生徒もしくは学生またはこれらに準ずる者	同 320円	
	その他の者	同 400円	

注 常設展示の観覧料については、県内に居住する65歳以上の者および障害者は、無料とする。

○ 駐車場使用料

区 分	金 額
大 型 車	1回1台につき 1,500円
マ イ ク ロ バ ス	同 1,000円
普 通 車	同 500円
自 動 二 輪 車 原 動 機 付 自 転 車	同 200円

注 身体障害者福祉法第15条第4項の規定により身体障害者手帳の交付を受けている者（県内に居住する者に限る。）が自ら運転する場合および重度の身体障害または精神薄弱がある者で規則で定めるものが乗車し、その者の移動のために介護を行う者が運転する場合にあっては、無料とする。

付 則

この条例は、平成8年10月20日から施行する。（以下省略）

(3) 滋賀県立琵琶湖博物館管理運営規則（平成8年滋賀県教育委員会規則第11号）

（趣旨）

第1条 この規則は、滋賀県立琵琶湖博物館の設置および管理に関する条例（平成8年滋賀県条例第26号。以下「条例」という。）第8条の規定に基づき、滋賀県立琵琶湖博物館（以下「博物館」という。）の管理運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（開館時期）

第2条 博物館の開館時間は、午前9時30分から午後5時までとする。ただし、入館時間は、午後4時30分までとする。

2 館長は、特に必要があると認めるときは、前項に規定する開館時間または入館時間を変更することができる。

（休館日）

第3条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日（国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に定める休日（以下「休日」という。）である場合を除く。）
- (2) 休日の翌日（土曜日または日曜日である場合を除く。）
- (3) 1月1日から同月4日までおよび12月28日から同月31日まで

2 館長は、特に必要があると認めるときは、前項に規定する休館日を変更し、または臨時に休館日を定めることができる。

（指示）

第4条 館長は、博物館の施設および設備ならびに博物館資料の保全、館内の秩序維持その他管理上必要があると認めるときは、入館者に対し必要な指示をすることができる。

（入館の制限）

第5条 館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、その入館を拒否し、または退館を命ずることができる。

- (1) 館内の秩序を乱し、または乱すおそれのある者
- (2) 博物館の施設もしくは設備または博物館資料を損傷するおそれのある者
- (3) その他館長の指示に従わない者

（入館者の遵守事項）

第6条 博物館の入館者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 博物館の施設もしくは設備または博物館資料をき損し、または汚損しないこと。
- (2) 他の入館者に危害または迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- (3) 指定する場所以外の場所において喫煙または飲食をしないこと。
- (4) その他館長が指示する事項

（観覧手続）

第7条 博物館の展示を観覧しようとする者は、条例第3条に規定する観覧料を納付し、観覧券の交

付を受けなければならない。ただし、納入通知書により観覧料を納付した者および観覧料の免除を受ける者は、その事由を示す書類を提示して、観覧券の交付を受けるものとする。

(特別観覧の許可)

第8条 博物館資料の熟覧、模写、模造、撮影等（以下「特別観覧」という。）をしようとする者は、あらかじめ、特別観覧許可申請書（別記様式第1号）を館長に提出してその許可を得なければならない。

2 前項の許可は、特別観覧許可書（別記様式第2号）を交付して行うものとする。

3 館長は、第1項の許可をする場合において必要があるときは、当該許可に条件を付することができる。

(特別観覧の制限)

第9条 館長は、次の各号のいずれかに該当するときは、特別観覧を許可しないものとする。

(1) 特別観覧により博物館資料の保存に悪影響が生ずると認められるとき。

(2) 他の入館者の観覧に支障があると認められるとき。

(3) その他特別観覧を許可することが適当でないと認められるとき。

(博物館資料の貸出し)

第10条 館長は、博物館資料を他の博物館その他館長が適当と認めるものに貸し出しすることができる。

(損害賠償)

第11条 博物館の入館者および博物館資料の貸出しを受けたものは、自己の責めに帰すべき理由により、博物館の施設もしくは設備を損傷し、または博物館の備品もしくは博物館資料を亡失し、もしくは損傷したときは、これによって生じた損害を賠償しなければならない。

(経費の負担)

第12条 博物館の利用は、条例第3条に規定する観覧料を除き、すべて無料とする。ただし、調査、資料の運搬その他のため特別の経費を要する場合には、その費用を利用者に負担させることができる。

(部および課等の設置)

第13条 博物館に総務部、事業部および研究部をおく。

2 総務部に総務課および企画調整課を置く。

3 事業部に展示科、資料科、交流センターおよび情報センターを置く。

(部および課等の分掌事務)

第14条 部ならびに課、科およびセンターの分掌事務は、次のとおりとする。

総務部	総務課	(1) 職員の身分、服務その他人事に関すること。 (2) 公印の管守に関すること。 (3) 文書の収発および保存に関すること。 (4) 博物館の予算経理および庶務に関すること。 (5) 博物館の管理運営の総括に関すること。 (6) 現金および有価証券の出納保管に関すること。
-----	-----	--



総務部	(総務課)	(7) 施設および設備の維持管理に関すること。 (8) その他の所掌に属さない事項に関すること。
	企画調整課	(1) 博物館の運営計画および総合調整に関すること。 (2) 他の博物館との連携に関すること。 (3) 博物館の広報に関すること。 (4) 滋賀県立琵琶湖博物館協議会（以下「協議会」という。）に関すること。 (5) 前各号に掲げるもののほか、特に命ぜられた事項
事業部	展示科	(1) 常設展示、企画展示、野外展示および移動展示に関すること。 (2) 水族の飼育および保護増殖に関すること。
	資料科	(1) 博物館資料（映像および図書・文献を除く。以下この項において同じ。）の収集、整理、保管および利用に関すること。 (2) 博物館資料の借入れおよび貸出しに関すること。 (3) 博物館資料の評価に関すること。
	交流センター	(1) 観察会、見学会その他の交流活動に関すること。 (2) 利用者の受入れおよびネットワークづくりに関すること。
	情報センター	(1) 情報システムの整備および運用に関すること。 (2) 映像および図書・文献の収集、整理、保管、利用等に関すること。
研究部		(1) 湖沼研究系 湖沼環境の現在の成り立ちに係る研究調査に関すること。 (2) 集水域研究系 湖沼の集水域環境の現在の成り立ちに係る研究調査に関すること。 (3) 応用地域研究系 湖沼環境および集水域環境の解明を踏まえて行う応用研究調査に関すること。 (4) 博物館学研究系 博物館学に係る研究調査に関すること。

(職員の設置)

第15条 博物館に館長その他の所要の職員を置く。

(寄贈および寄託)

第16条 博物館は、博物館資料の寄贈および寄託を受けることができる。

2 寄贈または寄託を受けた博物館資料は、その品名、員数ならびに寄贈または寄託を行なった者の住所および氏名を記録し、整理保管するものとする。

(協議会の庶務)

第17条 協議会の庶務は、博物館において処理する。

(委任)

第18条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、館長が教育長の承認を得て定める。

付 則

この規則は、交付の日から施行する。ただし、第2条から第7条までの規定は、条例付則第1項ただし書に規定する規定の施行の日から施行する。

別記様式 (省略)

#### (4) 琵琶湖博物館観覧料および使用料減免要綱

滋賀県使用料および手数料条例（昭和24年滋賀県条例第18号）第2条第74号の2に定める琵琶湖博物館の観覧料および使用料に係る同条例第8条の規定による減免の取扱いは、次のとおりとする。

- (1) 学校教育法第17条、第35条、第41条および第71条に規定する教育を行うため、県内の小学校、中学校、高等学校もしくは盲学校、聾学校もしくは養護学校の小学部、中学部もしくは高等部または同法第83条の各種学校のうち同法第18条および第36条の目標達成に類する教育を行う県内の学校が、学校行事として琵琶湖博物館の常設展示または企画展示を観覧する場合は、児童または生徒およびこれらの引率者の観覧料を免除する。
- (2) 「草津市立水生植物公園みずの森」と合わせて個人で観覧する場合は、団体の観覧料に減額する。
- (3) 琵琶湖博物館観覧者および草津市立水生植物公園みずの森入園者が使用する普通車、自動二輪車・原動機付自転車の駐車場使用料は、免除する。

#### 付 則

この要綱は、平成8年10月20日から適用する。

(5) 家庭の日および体験学習の日における観覧料の取扱い（通知）

（平成 8 年 8 月 21 日 教育長通知）

「家庭の日」および「体験学習の日」における滋賀県立琵琶湖博物館の  
観覧料の取扱いについて（通知）

このことについて、「家庭の日」および「体験学習の日」における県立文化施設の無料開放の実施に伴い、琵琶湖博物館の常設展示の観覧料を、下記のとおり免除することとなりましたので通知します。

おって、免除の対象者や確認方法等は下記のとおりですので、取扱いについて遺漏のないようお願いいたします。

記

1 免除の対象となる施設および使用料

琵琶湖博物館の常設展示の観覧料

2 免除の対象者

(1) 「家庭の日」

県内に在住し、親子・家族連れで来館する者

(2) 「体験学習の日」

県内に在住または県内の幼稚園、小学校、中学校、高等学校、障害児教育諸学校に在園もしくは  
は在学している児童または生徒

3 免除の対象日および期間

(1) 「家庭の日」

琵琶湖博物館開館の日（平成 8 年 10 月 20 日）から平成 9 年 3 月までの毎月の第 3 日曜日

(2) 「体験学習の日」

琵琶湖博物館開館の日（平成 8 年 10 月 20 日）から平成 9 年 3 月までの毎月の第 2・4 土曜

4 免除の確認方法

(1) 「家庭の日」

県広報紙「ニュー滋賀」に掲載する「スマイルカード」の提示による。

県広報紙「ニュー滋賀」の提示による。

(2) 「体験学習の日」

県広報紙「ニュー滋賀」に掲載する「スマイルカード」の提示による。

県広報紙「ニュー滋賀」の提示による。

## V 平成8年度 博物館ダイアリー

・印は、行事を示す。

月	日	主な来館者・行事等の記録
4	1 26 24	<ul style="list-style-type: none"> <li>・滋賀県立琵琶湖博物館が条例設置</li> <li>・事務所を大津から草津市へ移転開始</li> <li>・琵琶湖博物館のシンボルマーク発表</li> <li>・報道関係の施設見学会</li> </ul>
5	1 24	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学芸員3名採用（微古生物学、民俗学、陸上昆虫学）</li> <li>・（社）日本動物園水族館協会より古賀賞（繁殖特別賞）が、当館水族担当職員（前畑政義、桑原雅之、秋山廣光、松田征也）に授与された。</li> </ul>
6	18 21 30	<ul style="list-style-type: none"> <li>千葉県立中央博物館研究部長等（5名）</li> <li>蒲生郡中学校理科教育部会（10名）</li> <li>・展示工事・屋外付帯施設工事・土木、造園、植栽工事完了</li> </ul>
7	1 2 6 9 16 17 19 22 23 26 29	<ul style="list-style-type: none"> <li>・京都駅地下カラマ広報開始</li> <li>滋賀県観光推進名古屋連絡協議会（15名）</li> <li>常盤学区各種団体長（30名）</li> <li>成安造形大学学生（40名）</li> <li>国際協力事業団青年招へい事業（韓国）（25名）</li> <li>テレトピア促進協議会（20名）</li> <li>天ヶ瀬ダム放流連絡会（20名）</li> <li>滋賀県消防協会（25名）</li> <li>・学芸員採用選考滋賀県公報登載</li> <li>（助）滋賀県建設技術センター研修生等（9名）</li> <li>滋賀県建設業協会建築技術委員会（14名）</li> <li>千葉工業大学教授、学生等（16名）</li> </ul>
8	1 1 1 3 8 19 22 22 23	<ul style="list-style-type: none"> <li>びわ湖まつり「感謝の日」関係府県来賓（6名）</li> <li>立命館大学びわこ・くさつキャンパス教職員（90名）</li> <li>国土庁計画・調整局長等（7名）</li> <li>国土庁大都市整備局整備課等（3名）</li> <li>・琵琶湖博物館の開館日（10月20日）を発表</li> <li>草津商工会議所（15名）</li> <li>滋賀県議会文教警察常任委員会（12名）</li> <li>大阪府議会水資源開発促進委員会（15名）</li> <li>湖南ブロック社会教育連絡協議会（50名）</li> </ul>
9	3 11 14 18 19 24 24 25 25 26	<ul style="list-style-type: none"> <li>水のめぐみ館アクア琵琶（11名）</li> <li>鹿児島県立博物館（2名）</li> <li>滋賀県観光キャンペーン推進協議会事務局（20名）</li> <li>・全館くん蒸実施（14日～16日）</li> <li>豊中水道事業管理者企画課長等（3名）</li> <li>静岡県企画課主幹等（2名）</li> <li>鳥取市教育委員会博物館建設課参事等（3名）</li> <li>・インストラクター30名の研修開始</li> <li>・第1回琵琶湖博物館協議会開催</li> <li>滋賀県観光キャンペーン推進協議会（10名）</li> <li>山口市議会（6名）</li> </ul>
10	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員に向けての知事談話</li> <li>「ニュー滋賀」博物館特集発行</li> </ul>

月	日	主な来館者・行事等の記録
10	4	・秋篠宮同妃両殿下の御来県発表（知事記者会見）
	4	・博物館の記者内覧会開催
	4	全国湖沼環境保全対策推進協議会（70名）
	6	・学芸員採用第1次考査
	8	・BBC開館記念特別企画番組「辰巳琢郎の琵琶湖博物館訪問」収録
	8	・博物館消防訓練開催
	8	・琵琶湖博物館の開館日の資料提供
	9	・東京にて記者説明会開催
	11	甲西町博物館建設審議会委員（15名）
	17	・琵琶湖博物館駐車場完成
	18	・秋篠宮同妃両殿下お成り（18日～19日）
	18	・琵琶湖博物館開館記念式典および内覧会開催
	19	・琵琶湖博物館開館記念シンポジウム「水がはぐくむ命（その1）」開催
	20	・一般公開開始
	20	・開館記念特別展「今森光彦写真展」一里山 生命の小宇宙ー開催
	21	埼玉県環境部環境政策課（2名） 高岡市美術館友の会（40名）
	22	湖南省政治協商会議代表団龍团长等（7名）
	22	湖南地区消費者グループ連絡会会員（50名）
	22	近畿地域環境影響評価協議会会員（30名）
	23	西宮市議会（10名）
	23	琵琶湖工事事務所（50名）
	24	木之本町青少年育成県民会議（21名）
	24	能登川町教育委員会家庭教育学級（30名）
	24	大阪府営水道協議会（80名）
	24	水資源開発公団本社等（6名）
	25	滋賀県職員研修所新規採用職員（6名）
	26	・開館記念シンポジウム「水がはぐくむ命（その2）」開催
	29	滋賀県立高等学校事務職員協会湖南ブロック（13名）
	29	京都新聞マルチメディア懇話会（45名）
	29	五個荘町老人クラブ連合会（30名）
	29	滋賀県文化財保護審議会委員等（21名）
	29	伊吹町公民館講座「文化財教室」（52名）
	30	坂田郡社会教育委員連絡協議会（30名）
	30	琵琶湖工事事務所水質調査課（6名）
	31	八日市地方連絡協議会委員（51名）
11	1	野洲町教育委員会埋蔵文化財臨時職員研修（25名）
	1	農振西日本ブロック会議
	2	琵琶湖・淀川水質保全機構
	2	滋賀県友弘済会守山支部（19名）
	2	滋賀大学理科教育研究会（10名）
	4	・入館者13,126人（振替休日で最高を記録した。）
	4	近畿地区高等学校理科教育研究会（25名）
	4	福井県立若狭歴史民俗資料館友の会（45名）
	6	・学芸員採用第2次考査 近畿2府7県議会事務局長等（11名）
	6	滋賀県立高等学校事務職員協会（40名）

月	日	主な来館者・行事等の記録
11	6	高月町立観音の里歴史民俗資料館委員（11名）
	6	草津市笠縫公民館（25名）
	6	（財）大津市観光協会役員（12名）
	6	群馬県議会図書室運営委員会（7名）
	7	今津北小学校PTA（18名）
	7	滋賀県ゆとり創造セミナー（250名）
	7	中主町水環境を守る生活推進事業協議会（20名）
	8	（社）地域問題研究所（20名）
	8	体験的学習事例集作成委員会委員（3名）
	9	京都府久御山町長等（66名）
	9	淡海文化地方交流会（14名）
	9	TAIKENたかつき塾（20名）
	10	・里山訪問「棚田の水源をたどってみよう」開催
	10	・世界古代湖会議第1回企画委員会開催
	10	勝山恐竜研究会（13名）
	10	敦賀市博物館友の会（90名）
	10	自然と緑を守る大阪府民会議（50名）
	11	岐阜県科学振興センター（4名）
	12	彦根愛犬地域消費学習グループ連絡協議会（50名）
	12	大阪市天王寺区人権啓発推進会（40名）
	12	日本水道協会兵庫県支部（25名）
	13	近畿2府4県高等学校商業科教職員等（25名）
	13	栃木県児童家庭課長等（5名）
	13	静岡県焼津市職員等（5名）
	13	滋賀県議会前議員（63名）
	13	群馬県議会議員等（21名）
	13	鳥羽水族館（210名）
	14	草津市民生委員児童委員協議会（10名）
	14	五個荘町生き生き教室（28名）
	14	岐阜県川島町議会議員等（18名）
	14	大阪府農林水産部水産課長等（3名）
	14	滋賀県立彦根工業高等学校（90名）
	15	建設省近畿地方建設局（10名）
	15	宮崎県総合博物館長等（2名）
	19	草津市市政モニター（16名）
	19	大津市教育委員会環境教育部会員
	19	滋賀県生涯学習指導者養成講座受講者（200名）
	19	近畿府県副出納長等（18名）
	20	香川県歴史博物館建設準備室等（23名）
	20	名古屋市博物館友の会（149名）
	20	大阪市水道局工務部計画課長等（4名）
	20	静岡県湖西市商工会（15人）
	20	滋賀県修学旅行誘致促進協議会（30名）
	20	ため池等整備研究会（農林水産省等）（4名）
	21	国際環境協力分科会
	21	吹田市合成洗剤対策連絡協議会等（20名）

月	日	主な来館者・行事等の記録
11	21	岐阜県笠松中央公民館運営審議会等
	22	今津地方連絡会委員（24名） 京都府立大学農学部受講生（22名）
	22	関西電力（株）環境担当副長等（15名）
	22	岐阜県議会議員等（3名）
	22	水資源開発公団本社等（10名）
	22	滋賀経済同友会（20名）
	23	・里山訪問「森林の作業体験してみよう」開催
	26	栃木県子ども総合科学館解説嘱託員（6名）
	26	野洲郡教育委員会教育委員等（14名）
	26	静岡県生涯学習担当参事等（20名）
	26	北九州市教育委員会委員等（4名）
	26	埼玉県公園緑地協会常務理事等（3名）
	26	近畿ブロック河川担当者（18名）
	26	J R東海新幹線新駅担当課長等（14名）
	26	福島県立博物館（2名）
	26	建設省開発課（10名）
	27	(財)日本国際協力センター（10名）
	27	鳥根県平田市環境保全課（6名）
	27	彦根・愛知・犬上地区水道事業所（15名）
	27	日野町文化財専門委員（11名）
	27	水資源開発公団本社（4名）
	27	近畿管内府県情報通信担当者（18名）
	27	岐阜県土木部長等（3名）
	28	埼玉県北部公園建設事務所（3名）
	28	岐阜県副知事等（4名）
	29	徳島県教育委員長等（7名）
	29	水資源開発公団本社等（4名）
	29	湖南省水利団羅团长等（5名）
	29	能登川町議会議員等（21名）
	30	琵琶湖・淀川水質保全機構（6名）
30	滋賀大教育理科教育専修	
12	1	・里山訪問「里山を歩こう」開催 学芸員1名採用（鳥類学）
	1	甲良町長寺むらづくり委員会（28名）
	1	多治見市教育委員会（15名）
	3	滋賀県高等学校初任者（20名）
	3	滋賀県農村整備連盟湖北支部役員（40名）
	3	近畿運輸局企画部観光課課長補佐等（3名）
	4	環境庁・林野庁連絡協議会（14名）
	4	水資源開発公団本社等（4名）
	4	能登川町びわ湖協会（20名）
	6	高月町議会議員等（6名）
	6	信楽町文化財ボランティア教室（20名）
	6	草津地方連絡会議（50名） 近畿地方建設局等（17人）
	6	滋賀県高等学校理科教育研究会（20名）
	10	山口県山口博物館学芸課長等（4名）

月	日	主な来館者・行事等の記録	
12	10	北海道・東北各県東京事務所職員（6名）	
	10	日中経済文化技術交流協会中国代表団（15名）	
	10	中国国家水害防止総指揮部研修生等（5名）	
	11	草津市立草津第二小学校教職員（30名）	
	11	キッズプラザ大阪開設準備室（2名）	
	11	滋賀県消防学校教育生等（28名）	
	12	京都商工会議所（30名）	
	13	秋田県立博物館（2名） 全国農業土木技術連盟近畿支部（90名）	
	14	大阪女子大学学生（16名） びわ科学公開懇話会会員（100名）	
	17	水資源開発公団本社等（2名） 大津市議会議員等（20名）	
	18	美浜町文化財保護委員会委員長等（8名）	
	18	(社)茨城県文化福祉事業団副理事長等（2名）	
	19	モンゴル国フブスグル県代表団等（4名）	
	19	松阪地区広域連携推進協議会サーキング会議（17名）	
	20	成安造形大学学生等（181名）	
	20	滋賀県市町村広報広聴担当課長等（30名）	
	20	在阪九州各県協議会（13名）	
	20	彦根地区地方連絡会議委員（31名） 環境自治委員会（3名）	
	22	東海大学海洋科学博物館職員（36名）	
	23	滋賀県中央児童相談所（5名）	
	25	坂田郡小中学校環境教育主任（9名）	
	26	静岡県立自然系博物館設立推進協議会（18名）	
	26	浜松市教育長等（3名）	
	28	滋賀県修学旅行誘致促進協議会（28名）	
	1	5	・仕事始め
		8	草津市立矢倉小学校教職員（21名）
		8	埼玉県住宅都市部公園緑地課（3名）
		9	岐阜県副知事等（4名）
10		滋賀県高等学校長協会会員（68名）	
10		守口市教育研究会理科部会（15名） 栃木県農務部農蚕課（1名）	
11		京都府立大学文学部・農学部（70名）	
12		日本ミュージアム・マネジメント学会（30名）	
14		奈良県宇陀郡理科教育研究会会員（12名）	
14		(株)九州地域計画研究所（2名） 市町村長期実地研修生等（20名）	
14		滋賀県警察本部生活安全課（17名）	
15		福岡県国立博物館対策室（3名）	
17		農業農村整備事業に関する地域懇話会（25名）	
17		蒲生郡内小中学校環境教育主任会（18名）	
18		・里山フォーラム開催	
19		・企画展「今森光彦写真展」終了	
19		(社)子ども情報研究センター（15名）	
21		石川県議会閉鎖性水域対策特別委員会（16名）	
21		滋賀県自治連合会協議会（14名）	
22		・外国人の主任学芸員3名の採用を発表	
22		・第6回生態学琵琶湖賞に中島経夫専門学芸員の受賞が決定	



月	日	主な来館者・行事等の記録
1	22	滋賀県経営者協会労務研究会会員（22名）
	22	大津林業管内森林組合（25名） 岡山県新見市建設経済部長等（3名）
	22	・入館者73人（雪のため最低を記録）
	24	大阪府福祉部児童福祉課（3名）
	24	インドネシアジャワ州研修生（4名）
	24	マイク・マンスフィールド研修員（8名）
	24	国土庁大都市圏整備局計画課（3名）
	28	滋賀県出納局職員（30名）
	28	枚方市水道局技術研究会（20名）
	28	熊本県議会環境対策特別委員会委員等（18人）
	28	滋賀県議会総務企画常任委員会（11名）
	28	山形県文化環境部環境保護課（2名）
	29	栗東町生活環境保全推進会議（80名）
	29	東京都井の頭自然文化園管理事務所（2名）
	29	三重県議会議員
	29	栗東町立大宝小学校校長等（15名）
	30	静岡県管財課技監等（3名）
	30	・日本博物館研究協議会（庶務部門）開催
	30	N T T大津支局（4名）
	31	岐阜バス旅行センター等（30名）
31	滋賀県各市等監査事務局職員（16名）	
2	1	・外国人学芸員1名採用（陸上生態系学）
	2	愛知川町長野西評議員会（20名）
	4	自治省公務員課長
	4	草津県事務所副所長会議（11名）
	4	茨城県生活文化課（2名）
	5	鹿児島市建築課（2名）
	5	城陽市都市整備部管理課（12名）
	6	岡山県自然保護課（2名）
	6	山形県企業局企画開発課（2名）
	6	瀬田商工会婦人部部員（20名）
	7	犬上郡小中教育研究会
	7	佐賀県議会議員等（18名）
	7	徳島県立博物館（4人）
	11	札幌市市民局（8名）
	12	西浅井町長等（20名）
	13	水資源開発公団思川開発建設所（6名）
	13	兵庫県立人と自然の博物館（6名）
	13	京都府八幡市公園緑地課（8名）
	13	富山県日本海政策課（2名）
	13	群馬県草津町長等（7名）
13	蒲生町教育委員会（40名）	
13	近畿2府4県人事委員会事務局（15名）	
14	近畿地方建設局琵琶湖工事事務所（30名）	
14	伊勢市議会議員（8名）	

月	日	主な来館者・行事等の記録
2	14	鳥取県観光課（2名）
	14	加古川市議会議員（4名）
	14	自治省財政局公営企業第二課等（5名）
	15	埼玉大学教育学部環境教育専攻学生（10名）
	15	京都府美山の文化財を守る会（30名）
	16	愛知川町教育委員会親子ふれあい隊（24名）
	17	新潟県企画課社会文化施設建設班（2名）
	18	宇治市議会議員等（14名）
	18	松江市公園緑地課（5名）
	19	岐阜滋賀広域観光推進協議会（台湾旅行記者12名）
	19	海部郡町村総務課長会（14名）
	19	関西情報センター（16名）
	19	宮城県教育庁副参事等（3名）
	19	近畿地方建設局淀川ダム管理事務所（13名）
	19	水資源開発公団本社（3名）
	19	滋賀県土木企業常任委員会（10名）
	19	宮城県土木部設備室長等（3名）
	19	京都府社会教育放送利用推進協議会（25名）
	19	大阪市立自然史博物館（30人）
	20	山東町文化財専門委員（8名）
	21	田辺市環境浄化推進協議会委員等（50名）
	21	（財）石川県健民公社副理事長等（3名）
	21	京都工芸繊維大学学生等（48名）
	22	・参加型調査「春をさがしてみませんか」調査開始
	22	淡海生涯カレッジ（50名）
	22	亀岡市自然と人との環境学習会（35名）
	23	世界古代湖会議第2回企画委員会開催
	23	五個荘町教育委員会（30名）
	25	静岡県総合教育センター理科研修課長
	25	中部地域環境保全連絡協議会会員（20名）
	25	滋賀県農村整備連盟大津支部（24名）
	26	草津市地域総合センター教育事業担当職員（30名）
	26	滋賀県都市統計連絡協議会（16名）
	26	埼玉県立自然史博物館長（3名）
	26	木曾川三川公園建設促進上流域連絡協議会（15名）
	26	近畿地区教育研究（修）所連盟（20名）
26	滋賀県修学旅行誘致促進協議会（30名）	
26	中国湖北省科学技術委員会（3名）	
26	湖北町認定農業者等（20名）	
27	日中・日豪渡り鳥協定会議代表団（14名）	
27	佐賀県立博物館（1名）	
27	群馬県立自然史博物館学芸課長等（6名）	
27	愛知県豊川市公園緑地課長等（7名）	
27	愛知県大口町文化財保護審議会委員等（5名）	
27	鳥取県立博物館（3名）	

月	日	主な来館者・行事等の記録
2	27	自治省財政局地方債課等（3名）
	27	群馬県立社会教育館（2名）
	28	草津市小・中学校環境教育主任（20名）
	28	竜王中学校教職員（35名）
	28	堺市博物館副館長等（2名）
	28	農林水産省農業工学研究所等（4名）
3	2	東海民具学会（25名）
	4	建設省東北地方建設局岩手工事事務所（8名）
	4	(財)兵庫県青少年本部（9名）
	4	千歳サケのふるさと館館長等（2名）
	4	石川県教育センター（3名）
	5	(社)全国旅行業協会大阪府支部（45名）
	5	青森県立郷土館（1名）
	5	文部省社会教育課（1名）
	5	沖縄県文化課等（7名）
	6	佐賀県営繕課（2名）
	6	鹿児島市歴史資料センター黎明館副館長等（3名）
	7	大津市社会福祉協議会（40名）
	8	・企画展「博物館ができるまで」開催
	8	・開館記念シンポジウム「今、なぜ博物館なのか：その理念、実践と限界」
	8	宇治市教育委員会障害者教室
	8	海南市教育委員会（7名）
	9	滋賀県漁業協同組合連合青年会等（30名）
	9	京都市立中学校教育研究会理科部会（20名）
	11	・水族特別企画展「ブラジルの淡水魚」開催
	11	環境庁山陰地区国立公園（3名）
	11	京都市内博物館施設連絡協議会（50名）
	11	福岡県県南広域水道企業団（3名）
	11	経済企画庁総合計画局（3名）
	12	滋賀県県政モニター（100名）
	12	千葉県野田市郷土博物館（2名）
	12	石川県生涯学習課（3名）
	13	神奈川県立自然保護センター（1名）
	14	電通官公庁、地方自治体研修生（16名）
	14	・滋賀県博物館協議会研修会
	14	和歌山県岩出町文化財審議委員会（9名）
14	滋賀工業会（23名）	
14	兵庫県立西はりま天文台（2名）	
17	・日本動物園水族館協会近畿ブロック事務担当者会議開催	
18	鳥取県大規模活性化プロジェクト推進室（1名）	
18	ミュージアムパーク茨城県自然博物館（2名）	
18	甲賀地方連絡会議（35名）	
18	(財)八尾市緑化協会（98名）	
19	北海道立北方民俗博物館（1名）	
20	・滋賀県環境総合計画県民フォーラム	

月	日	主な来館者・行事等の記録
3	22	亀岡市自然と人との環境学習会（35名）
	22	瀬戸内海歴史民俗資料館調査普及課長
	23	(財)海洋博覧会記念公園管理財団（2名）
	25	岐阜県内水面漁場管理委員会（18名）
	25	建設省都市局流域下水道課等（4名）
	25	茨城県大洗水族館（1名）
	27	京都設備事務所協会等（26名）
	28	(財)日本国際協力センター（7名）
	30	滋賀県立大学環境科学部等（13名）
	30	長岡市議会議員（1名）
30	調査研究船「うみんど」完成	



調査研究船「うみんど」完成

## VI 新しい淡海文化の創造に向けて

—平成8年10月1日職員向け知事談話より—

滋賀県知事 稲葉 稔

琵琶湖は私たちにさまざまな恵みを与え、また、絶え間なくメッセージを送り続けてっていますが、限られた時間と空間に生きる私たちにとって、その全部を受け取ることは到底できません。そもそも琵琶湖は私たちの目の前で見えているわけで、その意味では、すでにあるがままに展示されていると言えます。けれども、風景として琵琶湖を漫然と眺めていたのでは見えないことがたくさんあります。そうしたたくさん見えないことを伝え、琵琶湖の全体像を理解させてくれるのが博物館の大きな役割です。

たとえば、琵琶湖の持つ時間的な奥行の深さ。琵琶湖は、数百万年という気の遠くなるような時間を生きてきました。湖辺に人が住みついてから人類が刻んだ歴史は長いようでいて、琵琶湖の時計からすれば、ほんの短い間に過ぎません。そして、ここ数十年という瞬きにも近い時間に、水と生き物と私たちの暮らしとの関わりは急速に変化してしまいました。

それぞれの時代を、私たちは博物館で体験することができるようになります。自分自身の記憶にある時代ならば、それを呼び覚ますことによって、自然とのつながりを意識したライフスタイルをもう一度考え直し、また、それより古い時代ならば、人類の歩み、あるいは滋賀の文化、経済の発展の道りと琵琶湖の関わりに思いを巡らせ、琵琶湖の価値を再発見することができます。そして、生物の進化、地層の変化を追いかけることで、琵琶湖の歴史だけでなく、地球の歴史にも思いが到ることでありましょう。

琵琶湖博物館は、「湖と人間」という明確なテーマを持っています。琵琶湖と自然、暮らしや文化といったものを再発見し、これからの湖と人間とのよりよい関係を考えていこうというメッセージを発信する博物館です。

博物館自体がそこで完結するものではなく、琵琶湖やその周辺、すなわち滋賀の自然や文化というフィールドへの入口でありますし、滋賀の志を広く発信していくという意味では、世界への出口ということもできます。この「湖と人間」というテーマは、その際のパスポートのようなものになるのではないかと思います。

単に物を並べる、従来型の博物館ではなくて、県民の皆さんとともに調査、研究を深めていく、生きた博物館としての運営もめざしています。そこから、人々の出会いやネットワークの広がりも生まれて来るはずです。

自分たちの生き方を自然との関わりでみつめ直し、新しい関係を築いていくこと、そしてそれを世界にも通じる価値に高めていくこと、こうした新しい淡海文化創造の取組みに、この博物館が大きな役割を果たすことを願います。

## Ⅶ 博物館利用のご案内

- 開館時間 AM 9:30～PM 5:00 (入館はPM 4:30まで)
- 休館日 毎週月曜日(休日である場合を除く)・休日の翌日(土・日曜となる場合を除く)・年末年始(12月28日～1月4日)
- 観覧料金(常設展)

	個人	団体(20人以上)	共通券(*)
小学生・中学生	250円	200円	320円
高校生・大学生	400円	320円	520円
大人	500円	400円	650円

※未就学児、県内居住の65歳以上の方と障害のある方ならびに学校行事としての観覧は無料です。  
(詳細についてはご確認ください。)

※企画展は別途料金となります。(開催期間中)

※草津市立水生植物公園「みずの森」との共通券。なお、団体は取り扱いません。

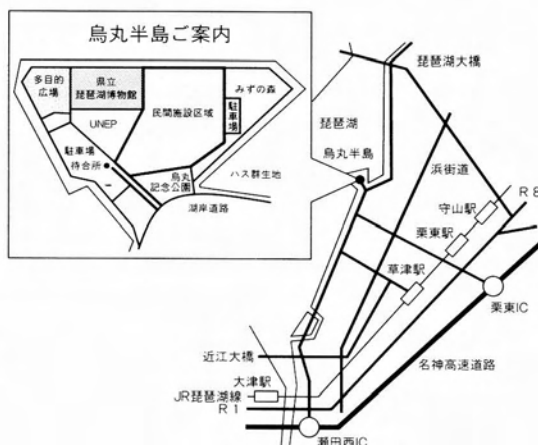
### ■ 交通案内

- JR新幹線「京都駅」「米原駅」からJR琵琶湖線(東海道)線に乗り換え「草津駅」「栗東駅」「守山駅」で下車。
  - ・「草津駅西口」から、近江鉄道バス「烏丸半島」行きで「琵琶湖博物館前」下車(約22分)。タクシーで約20分。
  - ・「栗東駅西口」からタクシーで約15分、「守山駅西口」からタクシーで約20分。
- 車では、名神高速道路「栗東I.C」から国道1号線を草津方面へ。信号2つ目「上鈎」で右折。湖岸道路につき当たって(「湖岸志那中町」)再度右折し、約1kmで「烏丸半島」へ。
- 航路では、琵琶湖汽船のシャトルボートが「大津港」「びわこ大橋港」「堅田港」「雄琴温泉港」から「草津烏丸半島港」へ(問い合わせ先:琵琶湖汽船)

### ■ 駐車料金

大型バス	1,520円	マイクロバス	1,010円
普通車*	500円	二輪車	200円

\*博物館観覧者が使用する普通車と二輪車は無料扱いとなります。(平成9年4月1日料金訂正)



### 【館内のご案内】

質問コーナー：学芸員が図書室のカウンターでみなさんからのご質問にお答えしています。

フロアトーク：平日には学芸員がPM 2:00から担当の展示コーナーで説明を行っています。

### 【催し物案内】

ミュージアム観察会：博物館のまわりで自然観察したり、館内の施設で実験・実習を行います。

フィールド観察会：県内各地のフィールドで地域の自然や人々の暮らしを見つめ直します。

博物館探検：普段は見ることのできない博物館や展示室の裏側を学芸員が紹介します。

博物館講座：一般の方を対象に専門的な内容をわかりやすく数回連続でお話しします。

博物館入門セミナー：琵琶湖博物館の活動や展示を幅広く知ることのできる連続講座です。

(事前に往復ハガキで申し込んでください。詳しくは、Faxサービス(0775-68-4844)、インターネットホームページ(<http://www.lbm.go.jp/>)で案内しています。)

平成9年10月

年 報  
第 1 号

編集・発行 滋賀県立琵琶湖博物館  
滋賀県草津市下物町1091番地  
T E L (077) 568-4811

印 刷 富士出版印刷株式会社  
滋賀県大津市札の辻4-20  
T E L (077) 523-2580

